

ArcGIS

ArcGIS Enterprise

基本構成

セットアップ ガイド

目次

1.	はじめに	1
1.1.	本ガイドについて	1
1.2.	ArcGIS Enterprise の基本構成.....	2
1.3.	基本構成の構築フロー	4
1.4.	本ガイドで使用している環境	5
2.	事前準備と環境設定.....	8
2.1.	Web サーバーの準備	9
2.2.	サービス URL、完全修飾ドメイン名 (FQDN) の準備.....	11
2.3.	ファイアウォールの設定	13
3.	Portal for ArcGIS のインストールと初期設定	14
3.1.	Portal for ArcGIS のインストール.....	14
3.2.	ポータル サイトの作成	17
3.3.	ArcGIS Web Adaptor のインストールおよび構成	21
3.4.	ポータル サイトへのサイン インの確認.....	26
3.5.	ポータル サイトのデフォルトの言語設定	27
4.	ArcGIS Server のインストールと初期設定.....	29
4.1.	ArcGIS Server のインストール	29
4.2.	新規 ArcGIS Server サイトの作成.....	37
4.3.	ArcGIS Web Adaptor の設定	41
4.4.	ArcGIS Server REST ページの確認.....	44
4.5.	自己署名証明書の警告の非表示設定.....	45
5.	ArcGIS Data Store のインストールと初期設定	49
5.1.	ArcGIS Data Store のインストール	49
5.2.	ArcGIS Data Store の構成.....	52
6.	Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定.....	56
6.1.	ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録	56
6.2.	ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録	59

7.	追加の管理設定	61
7.1.	ユーザーの追加と管理	61
7.2.	ポータル Web サイトのカスタマイズ	64
7.3.	3D シンボルのインストール	67
7.4.	ヘルプの日本語化	68
8.	参考情報	71
8.1.	サービス URL を別の URL に変更する方法	71
8.2.	Portal for ArcGIS から ArcGIS Server をフェデレート解除する方法	75
8.3.	ヘルプに関する情報	78

1. はじめに

1.1. 本ガイドについて

ArcGIS Enterprise は利用規模に応じて、サーバー 1 台の構成や、それぞれのコンポーネントを分離した複数台構成など柔軟に構築することが可能です。

本ガイドでは、サーバーを複数台使用した基本構成の構築を例として、ArcGIS Enterprise の基本構成をセットアップする基本的な流れや手順をご説明します。

- ArcGIS Server のみのインストールを行いたい場合は、2章の「[事前準備と環境設定](#)」と4章の「[ArcGIS Server のインストールと初期設定](#)」をご参照ください。
- 本ガイドは、組織内などの閉域ネットワーク環境でのセットアップを前提としています。ArcGIS Enterprise バージョン 11.5 以降、ArcGIS Web Adaptor 経由での ArcGIS Server の管理アクセスがデフォルトで有効化されており、無効化することができません。インターネットに公開される環境においては、ArcGIS Web Adaptor を前提とするのではなく、WAF (Web Application Firewall) を備えたロードバランサーを導入し、管理アクセスを適切に制御するとともに、外部からの不正アクセスや各種攻撃といった脅威からシステムを保護することを推奨します。

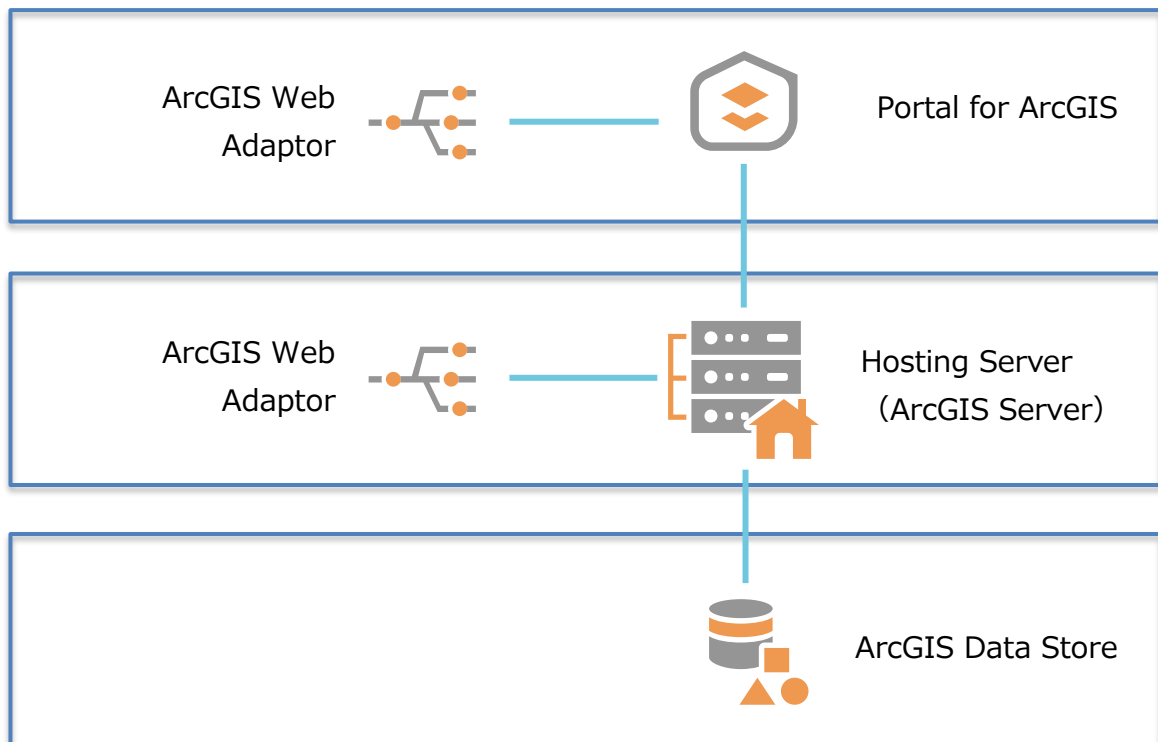
ArcGIS Enterprise における WAF の考え方については、次の資料をご参照ください。

[Web application firewalls | ArcGIS Architecture Center](#)

また、管理アクセスの制御に関する具体的な構成例については、次のブログをご参照ください。

[WAF\(Web Application Firewall\) 対応のロードバランサーを利用して ArcGIS Enterprise 管理アクセスを制限する](#)

1.2. ArcGIS Enterprise の基本構成



ArcGIS Enterprise の基本構成とは、以下 4 つのコンポーネントの構成を指します。

- Portal for ArcGIS
- ArcGIS Server
- ArcGIS Data Store
- ArcGIS Web Adaptor

※ArcGIS Web Adaptor は、Portal for ArcGIS および ArcGIS Server それぞれにインストールして設定する必要があります。

各コンポーネントの概要を以下に記載します。

■ [Portal for ArcGIS]

マップ ビューアーなど、ポータル サイトの UI を構築するコンポーネントです。また、ユーザーの設定やアイテムの管理など、ポータル サイト全体の管理も担っています。

■ [ArcGIS Server]

クライアントからのリクエストに応じて、地図の描画や解析といった処理を行う GIS エンジンとしての役割を果たすコンポーネントです。また、Portal for ArcGIS と統合（フェデレート）することで、ポータル サイト上で解析を行うことが可能になります。

■ [ArcGIS Web Adaptor]

Web サーバーを経由して、ポータル サイトや ArcGIS Server に公開しているサービスにアクセスする仕組みを提供するコンポーネントです。また、Active Directory といった組織のアイデンティティ ストアを Web 層レベルで使用することができ、シングル サインオンやその他の認証形式を利用することが可能になります。

■ [ArcGIS Data Store]

ホスト フィーチャ レイヤーやホスト シーン レイヤーといったホスト サービスのデータを格納するコンポーネントです。

1.3. 基本構成の構築フロー

本ガイドで構築する、ArcGIS Enterprise 基本構成の構築フローを下図に示します。



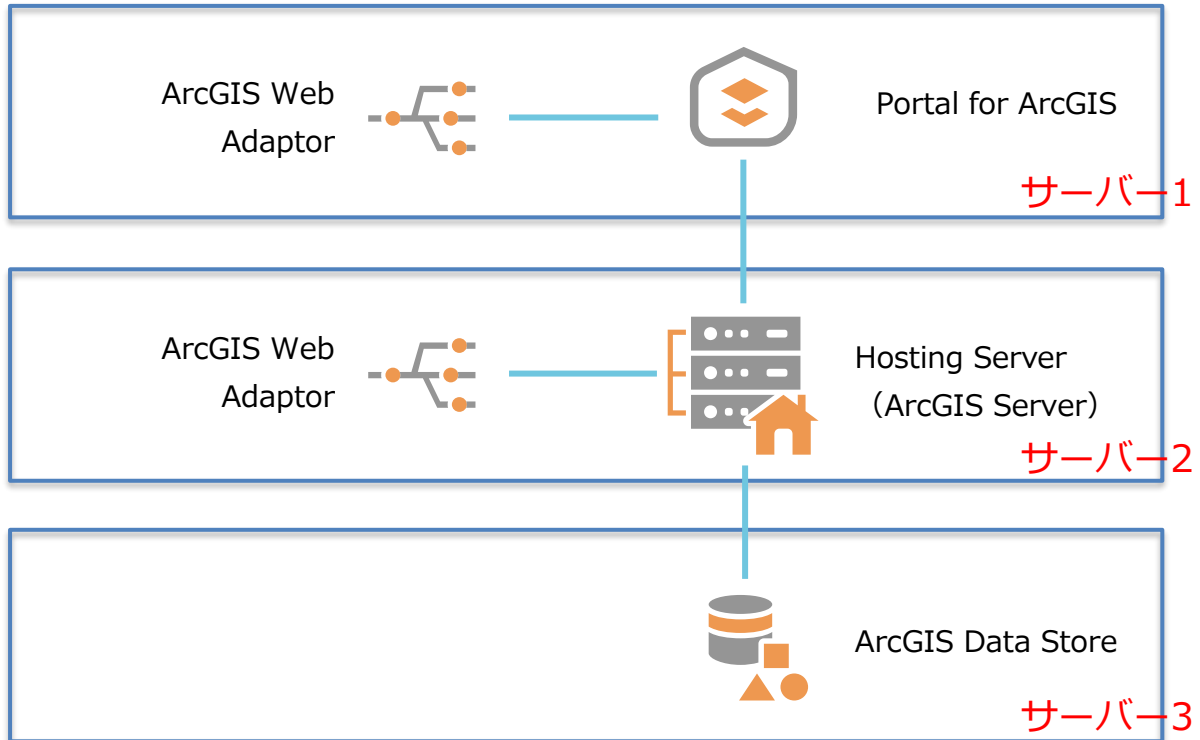
- 1台のサーバーに ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する場合や、オンプレミスの物理サーバー、仮想サーバーの環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する際も本ガイドと同様の手順で構築することができます。

- ロードバランサーやリバースプロキシを介して Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスする場合や、クラウド環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する場合は、別途設定が必要な場合があります。詳細については、2章の「[2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名 \(FQDN\) の準備](#)」で説明します。

1.4. 本ガイドで使用している環境

本ガイドで想定している環境は以下の通りです。

イントラネット環境内の 3 台のサーバーに、ArcGIS Enterprise の基本構成を構築します。



各サーバーの環境情報を下表 <各サーバーの環境情報> に記載します。

Portal for ArcGIS (サーバー 1) と ArcGIS Server (サーバー 2) のサービス URL には、[2.2 サービス URL、完全修飾ドメイン名 \(FQDN\) の準備](#) にて記載する手順で FQDN を設定しています。

- 1 台のサーバーに ArcGIS Enterprise の基本構成を構築される場合、各コンポーネントをホストしているマシン名や Portal for ArcGIS および ArcGIS Server のサービス URL の FQDN は同一になりますが、本ガイドと同様の手順で基本構成を構築することが出来ます。上記の場合、以下の章では、マシン名やサービス URL の FQDN を読み替えた上で手順にお進みください。

なお、ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する際は、各コンポーネントのバージョンを統一してください。

<各サーバーの環境情報>

	サーバー1	サーバー2	サーバー3
マシン名	svr01	svr02	svr03
サービス URL の FQDN	sv01.myorg.local	sv02.myorg.local	ユーザーのアクセスなし
OS	Windows Server 2022 Standard (64-bit)	左記に同じ	左記に同じ
導入ソフトウェア	ArcGIS Web Adaptor 11.5 Portal for ArcGIS 11.5	ArcGIS Web Adaptor 11.5 ArcGIS Server 11.5	ArcGIS Data Store 11.5
Web Adaptor 名	portal	server	

以下の表は、お客様の環境情報やサービス URL のメモ用にお使いください。

	サーバー1	サーバー2	サーバー3
マシン名			
サービス URL の FQDN			
OS			
導入ソフトウェア			
Web Adaptor 名			

あわせて、各コンポーネントのインストールや初期設定時に必要となる情報のメモ用に以下の表をお使いください。

	アカウント情報
Portal for ArcGIS 実行サービス アカウント	アカウント名： パスワード：
Portal for ArcGIS 初期管理者 アカウント	アカウント名： パスワード：
ArcGIS Server 実行サービス アカウント	アカウント名： パスワード：
ArcGIS Server プライマリ サイト管理者アカウント	アカウント名： パスワード：
ArcGIS Data Store 実行サービス アカウント	アカウント名： パスワード：

- ArcGIS Enterprise 各コンポーネントのシステム要件は、以下のリンクをご参照ください。

「ArcGIS Enterprise 動作環境」

<https://www.esri.com/products/arcgis-enterprise/environments/>

2. 事前準備と環境設定

ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する前に、以下の項目を準備しておく必要があります。本ガイドでは、各項目を設定するための手順は省略し、各項目が設定されていることを確認するための手順を記載します。

- [2.1. Web サーバーの準備](#)
- [2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名 \(FQDN\) の準備](#)
- [2.3. ファイアウォールの設定](#)

基本構成の構築に必要な各コンポーネントのインストーラーおよびライセンス ファイルの一覧を以下に記載します。構築の前に以下のファイルがあることをご確認ください。

Portal for ArcGIS と ArcGIS Server のインストーラーは .exe 拡張子と exe.001 拡張子を持つ 2 ファイルの構成になりました。

インストール時は両方のファイルが同じフォルダー内にあることをご確認ください。

- 各コンポーネントのインストーラー
 - Portal_for_ArcGIS_Windows_<バージョン>_<number>.exe
 - Portal_for_ArcGIS_Windows_<バージョン>_<number>.exe.001
 - Web_Adaptor_for_Microsoft_IIS_<バージョン>_ja_<number>.exe
 - ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_ja_<number>.exe
 - ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_ja_<number>.exe.001
 - ArcGIS_DataStore_Windows_<バージョン>_<number>.exe
- 必要なライセンス ファイル、認証番号
 - Portal for ArcGIS 指定ユーザー ライセンス ファイル (json 形式のファイルです)
 - ArcGIS Server ライセンス (prvc ファイル、ecp ファイル、あるいは ECP で始まる 12 桁の認証番号です)

- ArcGIS Server および Portal for ArcGIS のライセンス ファイルの取得方法は契約タイプによって異なるので、ライセンス ファイルを取得される際は、ライセンスコンファメーションおよび送付状をご確認ください。

2.1. Web サーバーの準備

ArcGIS Enterprise を構築する際、Portal for ArcGIS と ArcGIS Server それぞれに ArcGIS Web Adaptor をインストールするため、それぞれの環境に Web サーバーをインストールします（別途 Web サーバー用にサーバーを用意して、そちらに ArcGIS Web Adaptor を構成することも可能です）。Portal for ArcGIS や ArcGIS Server は独自のポートを使用しますが、独自ポートは管理用に利用されるため、管理用ポートでユーザーがアクセスする状態は IT ポリシー上好ましくなく、加えて、ポータルでは、管理用ポートではすべての構成を行うことが許可されていません。Portal for ArcGIS および ArcGIS Server それぞれに ArcGIS Web Adaptor を設定することで、独自のポートではなく、Web サーバーにアクセスする際に使用する一般的なポート（80、443 番）を使用してポータル サイトや ArcGIS Server に公開しているサービスにアクセスすることが可能になります。具体的には、クライアントからのリクエストは Web サーバーに送られるようになり、ArcGIS Web Adaptor がそのリクエストを Portal for ArcGIS や ArcGIS Server に転送します（ArcGIS Web Adaptor は、リクエストの転送だけでなく、ロードバランサーとしての役割も果たします）。

本ガイドでは Web サーバーとして IIS を利用しますが、ArcGIS Web Adaptor では以下の IIS の機能が必要です。IIS のダッシュボードから[役割と機能の追加] ページで、以下の機能にチェックを入れたうえで IIS のインストールを行ってください（IIS のインストール手順は OS で共通です。また、IIS に必要な機能がインストールされていない場合でも、ArcGIS Web Adaptor インストール時にこれらの機能もインストールされます）。なお、本ガイドでは、サーバー1 とサーバー2 に ArcGIS Web Adaptor をインストールするので、それぞれのサーバーに IIS をインストールします。

- IIS に必要な機能のうち、「.NET 拡張機能」および「ASP.NET」は、使用する OS や .NET Framework のインストール状況によってバージョンが異なります。

- Web サーバー
 - HTTP 共通機能
 - 既定のドキュメント
 - 静的なコンテンツ
 - セキュリティ
 - 要求フィルター
 - Windows 認証
 - 基本認証
 - アプリケーション開発
 - ASP.NET 4.5
 - ISAPI フィルター

- ISAPI 拡張
- WebSocket プロトコル

- 管理ツール
 - IIS 管理コンソール
 - IIS 6 と管理互換
 - IIS 6 メタベース互換
 - IIS 管理スクリプトおよびツール
 - 管理サービス

また、ArcGIS Enterprise を構築する場合、Portal for ArcGIS および ArcGIS Server 用にインストールする ArcGIS Web Adaptor に対して、ポート 443 で HTTPS/SSL (Secure Sockets Layer) 通信を許可するように設定します。Web Adaptor と Portal for ArcGIS または ArcGIS Server 間、クライアントと Web Adaptor 間の通信を暗号化するには、事前に Web サーバーに設定する SSL 証明書 (サーバー証明書) が必要となります。証明書には、CA 署名、ドメイン署名、自己署名の 3 種類があります。

初期テストを実行するために自己署名証明書を使用することもできますが、自己署名証明書は、ユーザーに対して予期しない結果やパフォーマンスの低下を引き起こす可能性があるため、実際の運用環境においては、CA 署名またはドメイン署名のいずれかのご使用をお勧めします。なお、本ガイドでは、事前に自己署名証明書を使用するよう設定した環境を利用しています。IIS にサーバー証明書の設定を行い、HTTPS/SSL 通信が行えるように設定する方法については「[Web サーバーで HTTPS を有効化](#)」を参考に行ってください。

- IIS 上でサーバー証明書をポート 443 にバインドする際、ホスト名は空文字にします。

- ポート 80/443 番が別のアプリケーションで使用されている場合は、これら以外のポートを使用して ArcGIS Web Adaptor を構成する必要があります。ポート 80/443 番以外のポートを使用して ArcGIS Web Adaptor を構成する方法については以下のヘルプをご参照ください。
「ポータル of ArcGIS Web Adaptor に対するデフォルト以外のポートの使用」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/use-a-non-default-port-for-the-portal-s-web-adaptor.htm>

- SSL 証明書についての詳細は、以下のヘルプをご参照ください。
「Web サーバーで HTTPS を有効化」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/enable-https-on-your-web-server-portal-.htm>

Web サーバーを構築したら、Web サーバーにアクセスできるか動作確認を行ってください。以下では、IIS の動作確認を行う手順を記載します。

1. Web サーバーがインストールされているマシンで Web ブラウザーを開いて、以下の URL を入力してください。

<http://localhost> (ポート番号 80)

<https://localhost> (ポート番号 443)

正常に動作している場合、IIS の画面が表示されます。

2. 次に、Web サーバーをホストするマシンとは別の、クライアント マシンのブラウザーから IIS にアクセスできるか確認します。クライアントのマシンで Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力してください。

<http://<WebサーバーのFQDN>>

<https://<WebサーバーのFQDN>>

正常に動作している場合、IIS の画面が表示されます。上記の URL にアクセスできない場合は、ファイアウォールや Windows ファイアウォールでポート 80、443 の通信が許可されているかご確認ください。

なお、Portal for ArcGIS および ArcGIS Server それぞれに ArcGIS Web Adaptor を設定する場合、ユーザーが Portal for ArcGIS および ArcGIS Server のエンド ポイントそれぞれにアクセスする際には、<https://<FQDN>/webadaptorname/> でアクセスすることになります。

デフォルトでは、上記の [webadaptorname] には、[arcgis] が設定されますが、それぞれ分かりやすい名前を設定することをお勧めします。

2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名 (FQDN) の準備

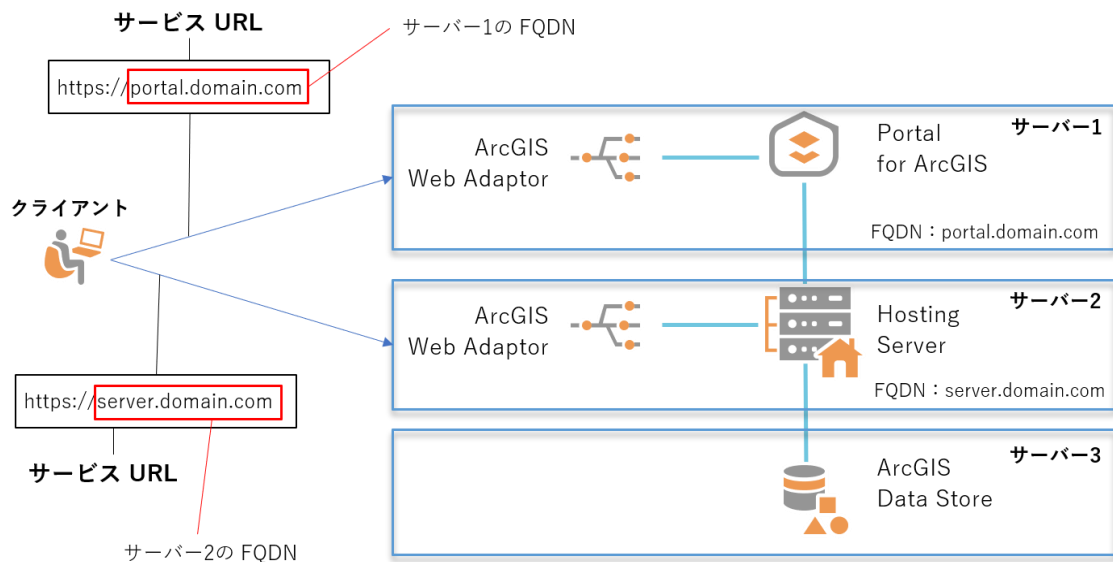
前節で説明した通り、ユーザーは ArcGIS Web Adaptor を介して Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスしますが、アクセス時に使用する URL をサービス URL と言い、Portal for ArcGIS にアクセスする場合、サービス URL に FQDN を設定する必要があります。そのため、内部 DNS などを使用して、Portal for ArcGIS をインストールするサーバーの FQDN (例：portal.domain.com) を設定し、Portal for

ArcGIS にアクセスする際には、その FQDN を使用してサーバーにアクセスできることを確認する必要があります（サーバーに portal.domain.com という名前の FQDN を設定した場合、サービス URL は https://portal.domain.com となります）。また、ArcGIS Server においても、Portal for ArcGIS と連携する際には、CORS の制約なども考慮して、FQDN を設定することを推奨しています。

FQDN を使用してサーバーにアクセスできるかを確認する際は、以下の ping コマンドをコマンド プロンプトで実行することでサーバーにアクセスできるかを確認することができます。各サーバーで ping の要求を受け入れるように設定し、各サーバーに疎通ができるかどうかを ping コマンドを使用して確認していただくことをお勧めします。

- ・ コマンド例（サーバーの FQDN が portal.domain.com の場合）

```
ping portal.domain.com
```



クライアントが ArcGIS Web Adaptor をインストールしている Web サーバーの URL をエンドポイントに、Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスする場合、サービス URL の FQDN は ArcGIS Web Adaptor をインストールしている Web サーバーの FQDN になります（本ガイドで想定している環境です）。この場合、Web サーバーおよび Portal for ArcGIS、ArcGIS Server をインストールしているマシンに FQDN を設定し、本ガイドの手順に従って ArcGIS Enterprise の基本構成の構築を行います。

Web サーバーの URL とは別の URL で Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスする場合は、別途設定が必要になります。別の URL で Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスするケースは、主に以下のケースです。

- ・ ロードバランサー（LB）やリバース プロキシを介してアクセスする場合
- ・ クラウド環境に ArcGIS Enterprise を構築する場合（サービス URL のホストが、各種クラウドで提供

するパブリック DNS（パブリック ホスト）である場合や、別途パブリック DNS サーバーに URL ホストを登録するケースになります）

この場合、Web サーバーや Portal for ArcGIS、ArcGIS Server をインストールしているマシンに FQDN を設定し、本ガイドの 3、4 章までの手順を行い、ArcGIS Web Adaptor と Portal for ArcGIS、ArcGIS Server を連携します。連携後、「[8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法](#)」に記載の手順に従って、WebContextURL パラメータに、クライアントのアクセス エンドポイントの URL を指定します。指定後は、本ガイドの 5 章以降の手順に従って、ArcGIS Enterprise の基本構成の構築を行います。

- Portal for ArcGIS および ArcGIS Server の管理設定を行う際に使用する URL（管理 URL）については FQDN でアクセスする必要はございません（マシン名のみでアクセス可能です）。

2.3. ファイアウォールの設定

Portal for ArcGIS、ArcGIS Server および ArcGIS Data Store では、さまざまなポートを使用して通信を行います。そのため、インストール後、各種コンポーネントの連携の設定を行う前に、事前に各コンポーネントがインストールされているサーバーのファイアウォールで、それらのポートによるサーバー間の通信を許可するよう設定する必要があります（これらのポートはファイアウォールの初期設定では通信を許可するように設定されていないため）。また、これらのポートが他のアプリケーションによって使用されている場合、そのアプリケーションが別のポートを使用するように変更する必要があります。

下表に、基本構成において、各コンポーネントで使用するポートを記載します。

コンポーネント	使用するポート
Portal for ArcGIS	7080、7443
ArcGIS Server	6080、6443
ArcGIS Data Store	2443、9876、29080、29081

そのほか、冗長化構成時や内部利用でのみ利用するポートもあります。各コンポーネントで使用されるポートの詳細については以下のリンクをご参照ください。

- 「Portal for ArcGIS で使用されるポート」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/install/windows/ports-used-by-portal-for-arcgis.htm>
- 「ArcGIS Server で使用されるポート」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/install/windows/ports-used-by-arcgis-server.htm>
- 「ArcGIS Data Store で使用されるポート」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/data-store/latest/install/windows/ports-used-by-arcgis-data-store.htm>

3. Portal for ArcGIS のインストールと初期設定

本章では、サーバー1 に Portal for ArcGIS 11.5 をインストールし、ポータル サイトを作成するまでの手順を説明します。ポータル サイト作成までの手順は以下になります。

- [3.1. Portal for ArcGIS のインストール](#)
- [3.2. ポータル サイトの作成](#)
- [3.3. ArcGIS Web Adaptor \(Portal 用\) のインストールと構成](#)
- [3.4. ポータル サイトへのサイン インの確認](#)
- [3.5. ポータル サイトのデフォルトの言語設定](#)

3.1. Portal for ArcGIS のインストール

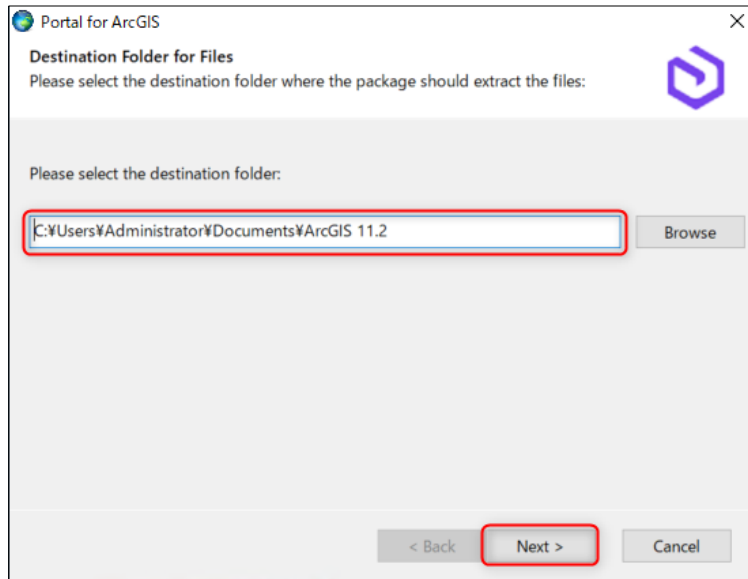
- Portal for ArcGIS のインストールを行うアカウントは、コンピューターの管理者権限を持つ必要があります。

- 本ガイドは、Portal for ArcGIS のインストーラーをダウンロードしてインストールする場合を想定しております。ISO ファイルをダウンロードしてインストールする場合は、ArcGIS Enterprise の ISO ファイルに含まれている Portal for ArcGIS のインストーラーを使用してください。製品メディアからインストールする場合は、製品メディアに含まれている Portal for ArcGIS のインストーラーを使用してください。

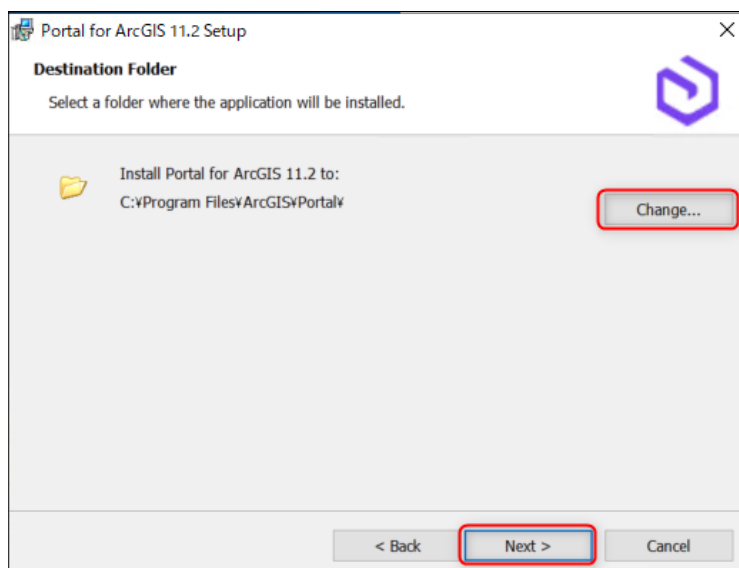
3. My Esri からダウンロードした Portal for ArcGIS のインストーラーをダブルクリックして、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

Portal_for_ArcGIS_Windows_<バージョン>_<number>.exe

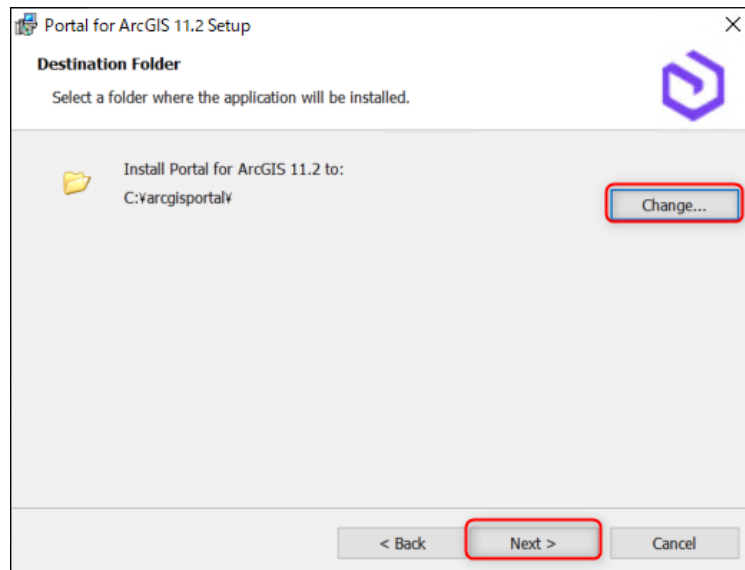
Portal_for_ArcGIS_Windows_<バージョン>_<number>.exe..001



4. インストーラーの展開の終了と同時に表示されるウィンドウにて、[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。
5. [Next] をクリックします。
6. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は、[I accept the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。
7. インストール先を選択し、[Next] をクリックします。



- Portal for ArcGIS のコンテンツ ディレクトリを指定し、[Next] をクリックします。



- インストール時に、コンテンツ ディレクトリの場所を指定する際は、ローカル ディレクトリである必要があります。ここでは、共有ネットワーク ディレクトリを選択することはできません。これは、Portal for ArcGIS サービスがデフォルトでは Windows 固有のローカル システム アカウントで実行されるように構成されているためです (ローカル システム アカウントは、ネットワーク ロケーションにアクセスできません)。インストール後、Portal for ArcGIS を実行するために使用するアカウントを変更することもできます。適切な権限のあるアカウントを使用して Portal for ArcGIS を実行することで、コンテンツ ディレクトリをローカル ディレクトリから共有ネットワーク ロケーションに変更することができます。

「ポータル コンテンツ ディレクトリの変更」

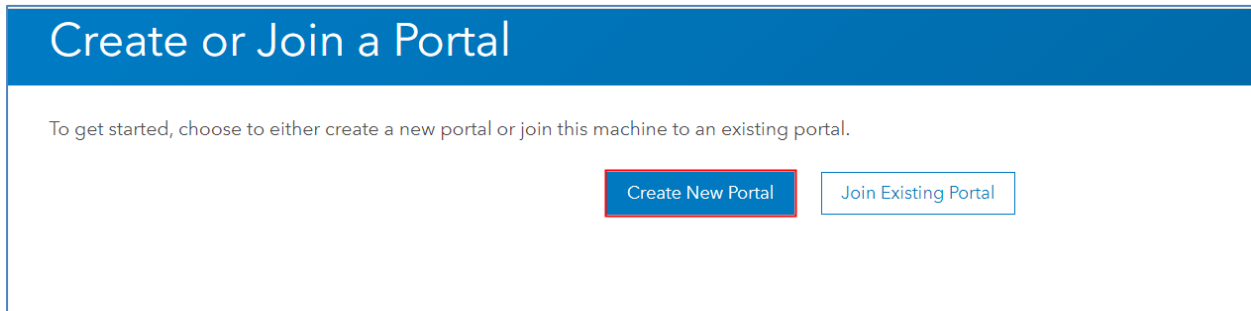
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/changing-the-portal-content-directory.htm>

9. Portal for ArcGIS のプロセスを実行するサービス アカウントを指定します。アカウント名とパスワードを入力し、[Next] をクリックします。
10. サーバー構成ファイルを出力するかを指定します。本ガイドではデフォルトの [Do not export configuration file.] を選択しますが、必要に応じて設定を変更してください。設定後、[Next] をクリックします。
11. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

インストールに成功すると、インストールが完了したことを示すウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックしてインストールを終了します。

3.2. ポータル サイトの作成

セットアップが終了すると、Portal for ArcGIS の組織サイト (以下、ポータル サイトと呼びます) が起動します。インストール直後は以下のようなページが表示されますので、既存のポータル サイトに参加するか、新しくポータル サイトを作成するかを選択します。本ガイドでは、新しくポータル サイトを作成するため、[CREATE NEW PORTAL] をクリックします。



- ポータル サイトを表示するためには、Web ブラウザーで JavaScript が有効になっている必要があります。

- Web ブラウザーにて、Web サイトのセキュリティ証明書に関する警告が表示された場合は、内容を確認後、閲覧を続行するように操作します。

ポータル サイトは、英語表記で表示されますが、言語設定を行うことで日本語表記に変更することができます。言語設定の手順については、「[ポータル サイトのデフォルトの言語設定](#)」をご参照ください。

1. ポータルのライセンス ファイルを選択する画面が表示されます。[参照] をクリックしてライセンス ファイルを選択します。選択後に [Next] をクリックします。

- ArcGIS Enterprise では、ユーザー タイプ、アプリ バンドル、およびアドオン アプリを含むポータル ライセンスが 1 つの json ファイルを使用して管理されます。ユーザー タイプやロールについては、[\[7.1. ユーザー追加と管理\]](#) をご参照ください。

Import License File

Select a license file (.json) to authorize your ArcGIS Enterprise portal's users and apps.

License file

ファイルを選択 ArcGIS_Enterprise_Porta..._449163_20240216.json ✓

Back

Next

2. ポータル サイトにサイン インするための初期管理者アカウントを作成します。ユーザー名、パスワード、ユーザー タイプを設定して、[Next] をクリックします。

初期管理者アカウントのユーザー名とパスワードに含めることのできる ASCII 文字は、以下に制限されます。

- 0 ~ 9 の数字
- A ~ Z の ASCII 文字 (大文字および小文字)
- ドット (.)

初期管理者アカウント作成後、パスワード ポリシーの変更を行うことができます。

- Portal for ArcGIS を構成するためには、ライセンス ファイルに、管理者ロールに対応しているユーザー タイプ ライセンスを 1 つ以上含める必要があります。

- 初期管理者アカウントについての詳細な情報は、以下のヘルプをご参照ください。

「初期管理者アカウントについて」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-the-initial-administrator-account.htm>

Create Initial Administrator Account

Create the account that will be used as the initial administrator for your ArcGIS Enterprise portal.

This is a new account that is stored with your ArcGIS Enterprise portal and is not an operating system account. Use this account to configure a Web Adaptor with your ArcGIS Enterprise portal and to sign into your ArcGIS Enterprise portal for the first time.

Username

Password

Confirm password

User type ⓘ

[Back](#)[Next](#)

3. 初期管理者の名前、E-mail アドレス、本人に関する質問と答え (パスワードを忘れた場合に使用) を半角英数字 (名前のみ全角文字を使用可) で設定して、[Next] をクリックします。

Enter Additional Account Information

Enter additional information for the initial administrator account you specified on the previous page.

First name

Last name

Email

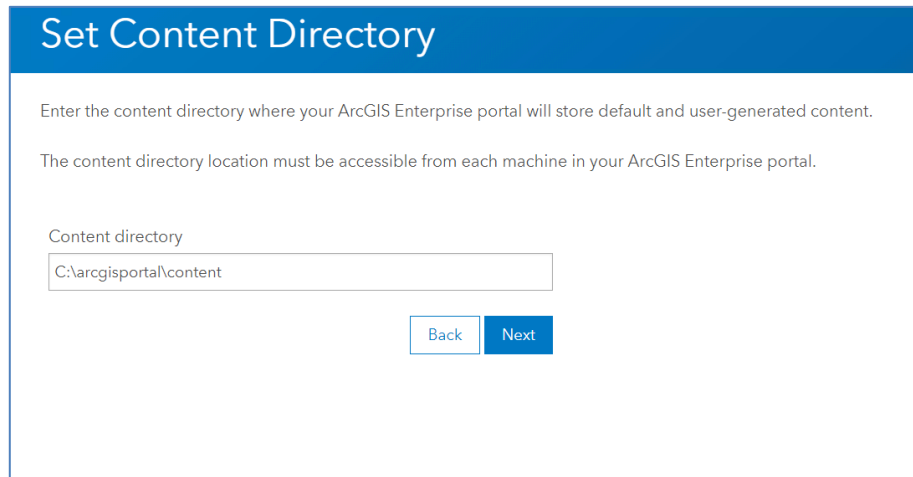
Confirm email

Security question

Answer

[Back](#)[Next](#)

4. Portal for ArcGIS のコンテンツ ディレクトリを指定します。本ガイドでは、デフォルトのディレクトリを使用します。[Next] をクリックします。



- コンテンツ ディレクトリの変更が必要な場合は、適宜変更してください。指定する場所は、ローカル ディレクトリである必要があります。ここでは、共有ネットワーク ディレクトリを選択することはできません。これは、Portal for ArcGIS サービスがデフォルトでは Windows 固有のローカル システム アカウントで実行されるように構成されているためです (ローカル システム アカウントは、ネットワーク ロケーションにアクセスできません)。インストール後、Portal for ArcGIS を実行するために使用するアカウントを変更することもできます。適切な権限のあるアカウントを使用して Portal for ArcGIS を実行することで、コンテンツ ディレクトリをローカル ディレクトリから共有ネットワーク ロケーションに変更することができます。

「ポータル コンテンツ ディレクトリの変更」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/changing-the-portal-content-directory.htm>

5. 確認ページが表示されます。問題なければ [Create] をクリックします。Portal for ArcGIS の再起動には数分を要する場合があります。
6. Portal for ArcGIS の再起動が完了すると、ポータル サイトにアクセスするには ArcGIS Web Adaptor のインストールと構成が必要であることを示すページが起動します。ブラウザを閉じます。

以上で、ポータル サイトの作成は完了です。

3.3. ArcGIS Web Adaptor のインストールおよび構成

引き続き、Portal for ArcGIS 用の ArcGIS Web Adaptor (以下、Web Adaptor) のインストールおよび構成を行います。本ガイドでは、Portal for ArcGIS をインストールしたサーバー（サーバー1）に Web Adaptor をインストールします。

- ArcGIS Web Adaptor(IIS) をインストールするコンピューターには、前提条件として以下をインストールしている必要があります。

- ・ [Microsoft Web Deploy 3.6](#)
- ・ [ASP.NET Core Runtime - Windows Hosting Bundle 8.x](#)

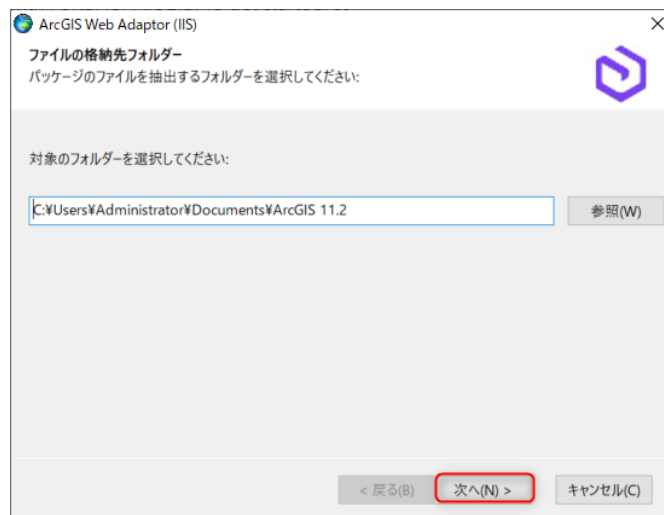
詳細な情報は以下のヘルプ ページをご覧ください。

「ArcGIS Web Adaptor のシステム要件」

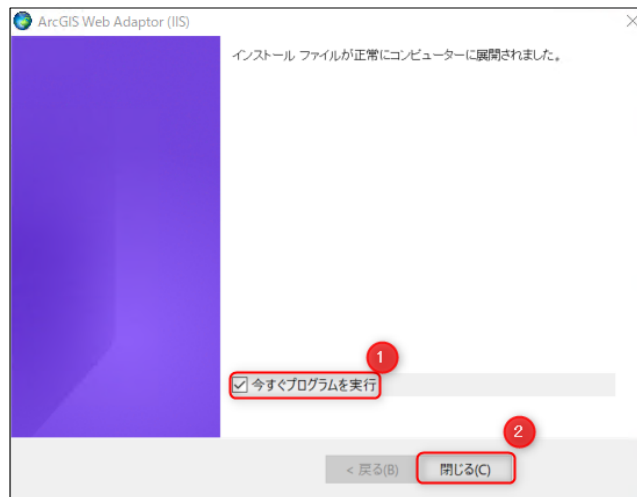
<https://enterprise.arcgis.com/ja/system-requirements/latest/windows/arcgis-web-adaptor-system-requirements.htm>

1. My Esri からダウンロードした Web Adaptor のインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

Web_Adaptor_for_Microsoft_IIS_<バージョン>_ja_<number>.exe



2. 展開が終わると下図が表示されます。[今すぐプログラムを実行] にチェックがついている状態で [閉じる] をクリックします。[閉じる] をクリックすると、インストーラー起動します。



3. [次へ] をクリックします。
4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [使用許諾契約書に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. Web Adaptor の Web サイトを選択し、[次へ] をクリックします。ここでは HTTPS (ポート 443) のサイトを選択します。



- Web サイトが 1 つしか存在しない場合および SSL 設定がされていない場合は、[Web Adaptor の Web サイトの選択] ダイアログは表示されません。また、Portal for ArcGIS との通信では https 通信を使用するので、あらかじめ Web サーバー上で https 通信を有効化しておく必要があります。

6. Web Adaptor の名前を入力します。デフォルトは「arcgis」です。本ガイドでは、Portal for ArcGIS 用の Web Adaptor の名前を「portal」と設定します。[次へ] をクリックします。



- 選択した Web サイトに、指定した Web Adaptor の名前と同じ仮想ディレクトリが既に存在する場合、メッセージが表示されるので [OK] をクリックし、Web Adaptor に異なる名前を入力してください。

7. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
8. [完了] をクリックしてインストールを終了します。
9. インストールした Web Adaptor と Portal for ArcGIS を連携する設定を行います。
 ※連携する設定を行う前に、サービス URL が、Web Adaptor をホストしているマシンの内部 IP アドレスで接続できることをご確認ください。

Web Adaptor をホストしているマシン上の Web ブラウザーで以下の URL にアクセスし、Web Adaptor の構成ページを開きます。

https://<サービス URL>:<ポート番号 (443 ではない場合)>/<Web Adaptor 名>/webadaptor

本ガイドでは、サーバー1 (portal.domain.com) に Web Adaptor 名が portal の Web Adaptor をインストールしたので、構成ページの URL は以下になります。

https://portal.domain.com/portal/webadaptor

10. [Portal for ArcGIS] を選択し、[次へ] をクリックします。



11. ポータルの URL には、Portal for ArcGIS をホストするサーバーの FQDN を入力します。管理者のユーザー名とパスワードは、Portal for ArcGIS インストール後に定義した初期管理者ユーザー名とパスワードを入力します。本ガイドでは、サーバー1 (portal.domain.com) に Portal for ArcGIS をホストしているので、FQDN は以下になります。

portal.domain.com

- Web Adaptor をホストしているサーバー上で上記の Portal for ArcGIS の管理用 URL にアクセスできるかご確認ください。

12. [構成] をクリックして、Web Adaptor に設定を適用します。これによって、Web Adaptor で認識されている Portal for ArcGIS のリストが表示されます。
- 以上で Web Adaptor の構成は完了です。

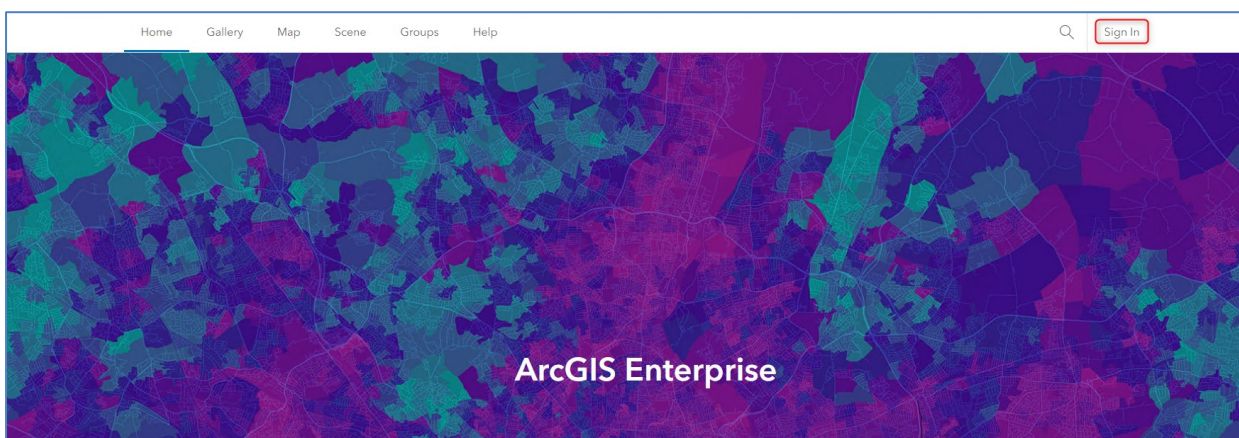
クラウド環境に ArcGIS Enterprise を構築する場合や、ロードバランサーやリバースプロキシを介して Portal for ArcGIS にアクセスする場合、上記の手順を行った後、「[8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法](#)」に記載の手順を行う必要があります。これらのケースに該当する場合は、当該手順を行います。これらのケースに該当しない場合は以下の手順にお進みください。

3.4. ポータル サイトへのサイン インの確認

Portal for ArcGIS のインストール、および ArcGIS Web Adaptor のインストールと構成が完了したら、以下の手順に従い、「[3.2. ポータル サイトの作成](#)」で作成した初期管理者アカウントを使用しポータル サイトへサイン インできることを確認します。

1. ArcGIS Web Adaptor の構成後に表示される URL を使用し、ブラウザでポータル サイトを開き、右上の [Sign In] をクリックします。本ガイドでは、下記の URL になります。

<https://portal.domain.com/portal/home>



2. 初期管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、[SIGN IN] をクリックします。

ArcGIS login

Username

Password

Keep me signed in

Sign In

[Forgot password?](#)

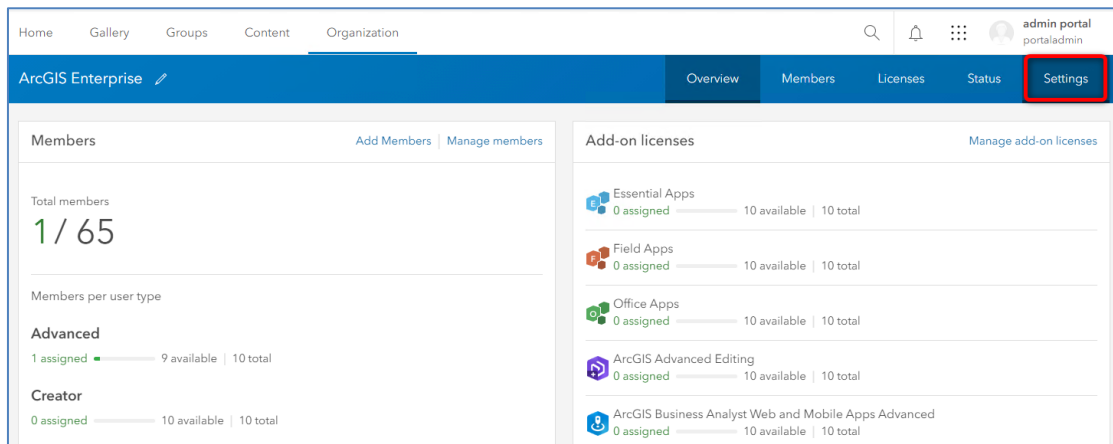
3. サイン インすると、ポータル サイト内の [Organization] ページが開きます。

以上で、ポータル サイトでのサイン インの確認は完了です。

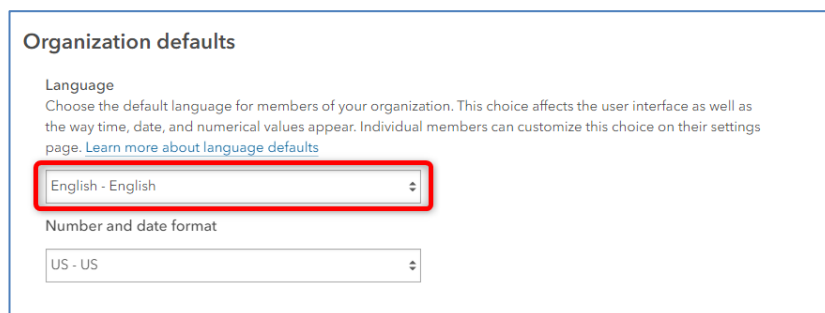
3.5. ポータル サイトのデフォルトの言語設定

ポータル サイトのデフォルトの表示言語を日本語に変更します。

1. ポータル サイトにサイン インし、[Organization] を開き、 [Settings] をクリックします。



2. ページ左のタブ メニューから [General] をクリックし、 [Language] のプルダウン メニューにて、 [Japanese - 日本語] を選択します。ページ最上部、もしくは最下部の [SAVE] をクリックします。ポータル サイトのデフォルトの表示言語が日本語に変更されます。



- 指定ユーザーは、それぞれユーザープロフィールで、[言語] の設定を行うことができ、この言語によって、そのユーザーでログインしている際のポータル サイトの表示言語を切り替えることができます。

The screenshot displays the ArcGIS Enterprise Admin Portal interface. At the top, there is a navigation bar with tabs for 'ホーム', 'ギャラリー', 'グループ', 'コンテンツ', and '組織'. The '組織' tab is active. Below the navigation bar, there is a search bar and a user profile for 'admin portal portaladmin'. The main content area is divided into two columns. The left column is titled 'メンバー' and shows '総メンバー数 1 / 65'. Below this, it lists 'ユーザータイプ別のメンバー' with two categories: 'Advanced' (1 assigned, 9 available, total 10) and 'Creator' (0 assigned, 10 available, total 10). The right column is titled 'アドオン ライセンス' and lists five license types, each with 0 assigned and 10 available licenses: 'Essential Apps', 'Field Apps', 'Office Apps', 'ArcGIS Advanced Editing', and 'ArcGIS Business Analyst Web and Mobile Apps Advanced'. A link '+10 個の追加のアドオン ライセンス' is visible at the bottom of the right column.

ホーム ギャラリー グループ コンテンツ **組織** 🔍 🔔 ⋮ admin portal portaladmin

ArcGIS Enterprise 概要 **メンバー** ライセンス ステータス 設定

メンバー [メンバーの追加](#) | [メンバーの管理](#)

アドオン ライセンス [アドオンライセンスの管理](#)

総メンバー数
1 / 65

ユーザータイプ別のメンバー

Advanced
1 を割り当て済み | 9 利用可能 | 合計 10

Creator
0 を割り当て済み | 10 利用可能 | 合計 10

[3 のユーザータイプを追加](#)

Essential Apps
0 を割り当て済み | 10 利用可能 | 合計 10

Field Apps
0 を割り当て済み | 10 利用可能 | 合計 10

Office Apps
0 を割り当て済み | 10 利用可能 | 合計 10

ArcGIS Advanced Editing
0 を割り当て済み | 10 利用可能 | 合計 10

ArcGIS Business Analyst Web and Mobile Apps Advanced
0 を割り当て済み | 10 利用可能 | 合計 10

[+10 個の追加のアドオン ライセンス](#)

4. ArcGIS Server のインストールと初期設定

本章では、サーバー 2 に ArcGIS Server 11.5 をインストールし、構成するまでの手順を説明します。手順は以下になります。

- [4.1. ArcGIS Server のインストール](#)
- [4.2. 新規 ArcGIS Server サイトの作成](#)
- [4.3. ArcGIS Web Adaptor の設定](#)
- [4.4. ArcGIS Server REST ページの確認](#)
- [4.5. 自己署名証明書の警告の非表示設定](#)

4.1. ArcGIS Server のインストール

ArcGIS Server コンポーネントのインストールを行います。ArcGIS Server をインストールすることにより、GIS サービスの公開や管理を行うことができます。インストールした GIS サーバーには組み込みの Web サーバーが含まれています。

- ArcGIS Server のインストールを行うアカウントは、コンピューターの管理者権限を持つ必要があります。アカウントは既存のものを使っても、新規で作成しても、どちらでも構いません。

- 本インストール ガイドは ArcGIS Server のインストーラーをダウンロードしインストールする場合を前提としております。ISO ファイルをダウンロードした場合、または、製品メディアからインストールする場合は、ArcGIS Server の ISO ファイルまたは製品メディアに含まれている ArcGIS Server のインストーラーを使用してください。

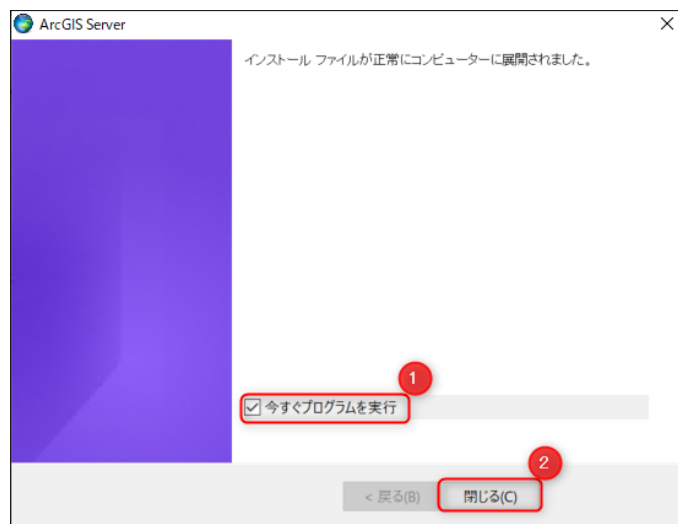
1. My Esri からダウンロードした ArcGIS Server のインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_ja_<number>.exe

ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_ja_<number>.exe.001



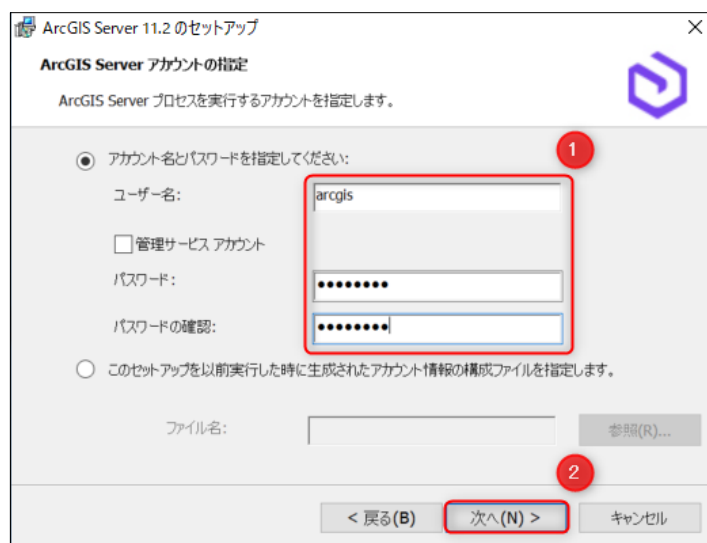
2. 展開が終わると下図が表示されます。[今すぐプログラムを実行] にチェックがついている状態で [閉じる] をクリックします。[閉じる] をクリックすると、インストーラーが起動します。



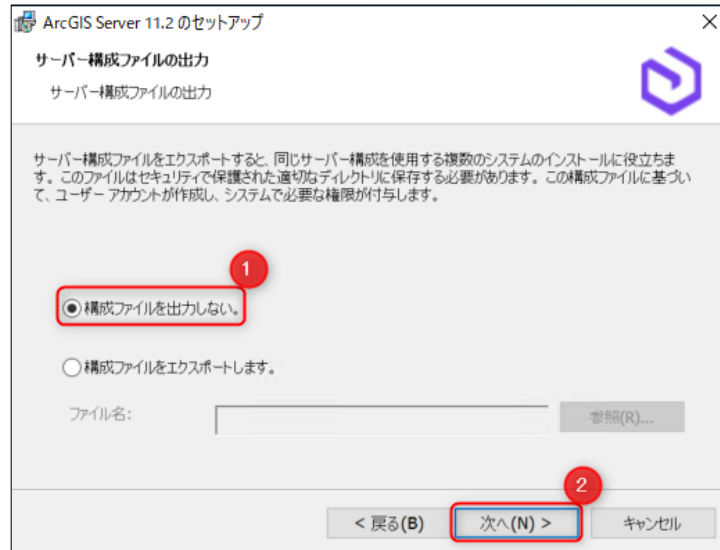
3. [次へ] をクリックします。
4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [マスター使用許諾契約書に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. インストールするコンポーネントおよびインストール先を指定し、[次へ] をクリックします。



6. ArcGIS Server のプロセスを実行するサービス アカウントを指定します。アカウント名とパスワードを入力したら、[次へ] をクリックします。



7. サーバー構成ファイルを出力するかどうかを指定します。本ガイドではデフォルトの「構成ファイルを出力しない。」にしますが、必要に応じて適宜変更してください。[次へ] をクリックします。



8. [インストール] をクリックし、インストールを開始します。
9. [完了] をクリックしてインストールを完了します。
10. インストール終了後、ソフトウェア認証ウィザードが表示されます。[ソフトウェアをインストール済みで、認証する必要がある。] を選択し [次へ] をクリックします。



11. [インターネットを使用して今すぐ Esri で認証。] を選択し、[次へ] をクリックします。

- [Esri の Web サイトで認証するか、電子メールで認証ファイルを受信。] を選択する場合は、別途「[オフライン環境下での ArcGIS Enterprise の認証について](#)」をご参照ください。

The screenshot shows the 'ソフトウェア認証ウィザード' (Software Authentication Wizard) dialog box. The title bar includes a close button (X). The main heading is '認証方法' (Authentication Method) with the instruction 'ソフトウェアの認証に使用する方法を選択します。' (Select the method to use for software authentication.). There are two radio button options: the first is 'インターネットを使用して今すぐ Esri で認証します (この自動的な方法が最も簡単な認証方法です。インターネット接続が必要です。)' (Authenticate with Esri immediately using the Internet (this automatic method is the simplest authentication method. Internet connection is required.)) and the second is 'Esri の Web サイトで認証するか、電子メールで認証ファイルを受信。' (Authenticate on the Esri website or receive an authentication file via email.). The first option is selected and highlighted with a red box and a red circle containing the number '1'. At the bottom, there are three buttons: '< 戻る' (Back), '次へ >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ >' button is highlighted with a red box and a red circle containing the number '2'.

12. ユーザー情報を入力し、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'ソフトウェア認証ウィザード' (Software Authentication Wizard) dialog box. The title bar includes a close button (X). The main heading is '認証情報' (Authentication Information) with the instruction '次の情報はレコードの照会、ソフトウェア使用の認証のために使用します。' (The following information is used for record queries and software authentication.). Below this is a form with several fields: '*名:' (Name) with 'Taro', '*姓:' (Surname) with 'Esri', '*組織:' (Organization) with 'Esri Japan Corp', '部署' (Department) (empty), '*住所 1:' (Address 1) with '2-7-1 Hirakawa Cho', '住所 2:' (Address 2) (empty), '*市区町村:' (City/Town/Village) with 'Chiyoda', '*都道府県:' (Prefecture) with 'Tokyo', '*郵便番号:' (Postal Code) with '102-0093', '*ロケーション:' (Location) with a dropdown menu showing '日本' (Japan), '*電話番号:' (Phone Number) with '81-3-3222-3941', '*電子メール:' (Email) with 'taro_esri@esri.com', and 'コメント:' (Comment) (empty). A note at the bottom left says '(* 必須フィールド)' (* Required field) and the bottom right says 'オプションとしてのユーザー定義による認証の説明です。' (Explanation of authentication by user-defined options). The entire form area is highlighted with a red box and a red circle containing the number '1'. At the bottom, there are three buttons: '< 戻る' (Back), '次へ >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ >' button is highlighted with a red box and a red circle containing the number '2'.

13. Esri 製品ライセンス コンファメーションに記載されている ArcGIS GIS Server の認証番号 (ECP で始まる 12 桁の文字数字列) を入力し、[次へ] をクリックします。

- オプション サーバーの ArcGIS Image Server または ArcGIS GeoEvent Server として、ArcGIS Server を使用する場合は、該当する認証番号を入力してください。

ソフトウェア認証ウィザード

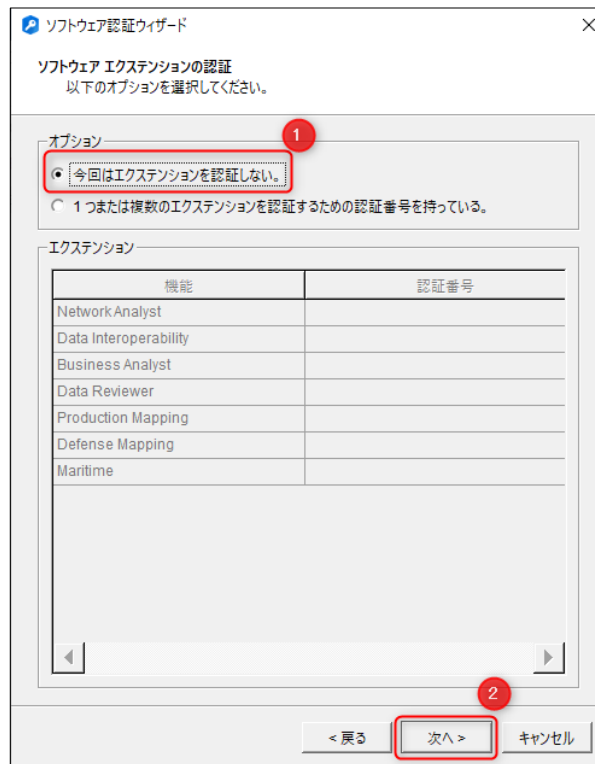
ソフトウェア認証番号
ソフトウェア製品の認証番号を入力します。

認証番号は 3 桁の文字と一連の数字で構成されます (例: ABC123456789)。

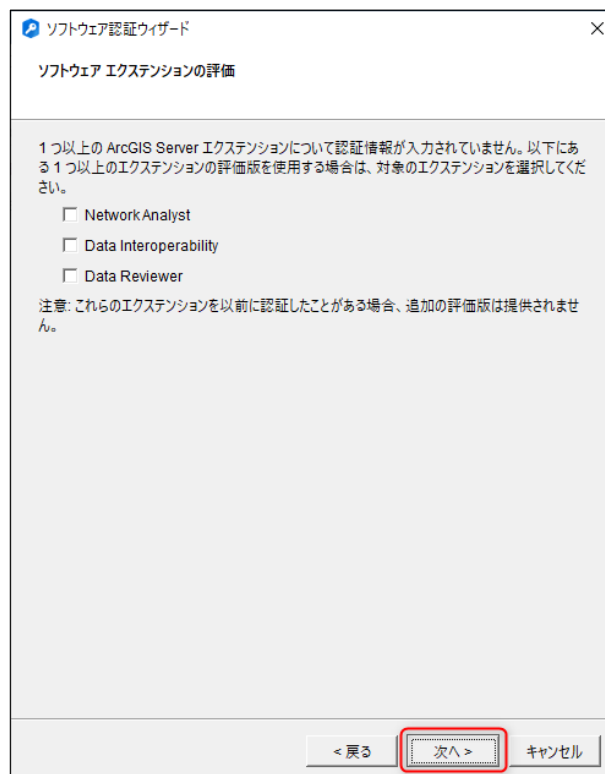
ArcGIS Server
ECP123456789

< 戻る 次へ > キャンセル

14. エクステンションをお持ちでない場合、[今回はエクステンションを認証しない。] をオンにします。エクステンションをお持ちの場合は、[1 つまたは複数のエクステンションを認証するための認証番号を持っている。] をオンにし、各エクステンションの認証番号を入力します。[次へ] をクリックします。



15. 各エクステンションをお持ちでない場合、エクステンションの評価版を使用することができません。エクステンションの評価版を使用する場合は、使用したいエクステンションのチェックボックスをオンにします。[次へ] をクリックします。



16. ソフトウェアの認証が終了したら、[完了] をクリックします。
17. 認証が終了すると、日本語パックのインストールが自動的に開始されます。
18. 日本語パックのセットアップが終了したら、[OK] をクリックします。

これで ArcGIS Server のインストールは完了です。

4.2. 新規 ArcGIS Server サイトの作成

1. セットアップが終了すると、ArcGIS Server Manager が起動します。[新規サイトの作成] をクリックして新規 ArcGIS Server サイトの作成を行います。

- ArcGIS Server Manager サイトにアクセスすると、Web サイトのセキュリティ証明書に問題があることを示す警告が表示されます。この警告を非表示にする方法については、本ガイドの「[自己署名証明書の警告の非表示設定](#)」をご参照ください。



2. ArcGIS Server サイトのプライマリ サイト管理者アカウントを作成します。ユーザー名とパスワードを設定して、[次へ] をクリックします。

ArcGIS Server Manager

プライマリ サイト管理者のアカウント [ヘルプ](#)

この ArcGIS Server サイトの管理者アカウントを作成します。このアカウントはサイトに格納される新しいアカウントで、オペレーティング システムのアカウントとは異なります。ArcGIS Server Manager にログインするには、このアカウントを使用します。

ユーザー名: ①

パスワード: ②

パスワードの確認: ③

④

3. ルート サーバー ディレクトリと構成ストアの指定を行います。場所を指定したら、[次へ] をクリックします。

- ルート サーバー ディレクトリに指定する場所はサイト内のすべてのコンピューター、構成ストアに指定する場所はサイト内の各コンピューターがアクセスできる必要があります。



4. 構成サマリーが表示されたら、ユーザー名、ルート サーバー ディレクトリ、構成ストアを確認して、[完了] をクリックします。
5. ArcGIS Server サイトの作成が完了すると、ArcGIS Server Manager のログイン画面が表示されます。手順 2 で作成した管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。



6. ログインすると、ArcGIS Server Manager の管理画面が開きます。ArcGIS Server で公開したサービスは ArcGIS Server Manager で管理することができます。

以上で、ArcGIS Server サイトの作成は終了です。

4.3. ArcGIS Web Adaptor の設定

引き続き、ArcGIS Server 用の ArcGIS Web Adaptor (以下、Web Adaptor) の構成を行います。本ガイドでは、サーバー2 (server.domain.com) に Web Adaptor をインストールします。インストール手順については「[3.3 ArcGIS Web Adaptor のインストールおよび構成](#)」をご参照ください。

1. Web ブラウザーから以下の URL にアクセスし、Web Adaptor の構成ページを開きます。
※連携する設定を行う前に、サービス URL が、Web Adaptor をホストしているマシンの内部 IP アドレスで接続できることをご確認ください。

`https://<サービス URL>:<ポート番号 (443 ではない場合)>/<Web Adaptor 名>/webadaptor`

本ガイドでは、サーバー2 (server.domain.com) に Web Adaptor 名が「server」の Web Adaptor をインストールしたので、構成ページの URL は以下になります。

<https://server.domain.com/server/webadaptor>

2. 「GIS, Image, Workflow Manager, GeoAnalytics or Knowledge Server」を選択し、「次へ」をクリックします。



3. GIS サーバーの URL には、ArcGIS Server サイト内の 1 台の GIS サーバーの FQDN を入力します。この FQDN で、そのサイトに参加している GIS サーバーすべてが検出され、Web Adaptor に登録されます。

例：server.domain.com

4. 3. ArcGIS Server サイトの管理者のユーザー名とパスワードを入力します（ArcGIS Server サイトを作成したときに定義したプライマリ サイト管理者ユーザー名とパスワードを入力します）。
5. ユーザーが Web Adaptor を介してサイトを管理できるようにするかどうかを選択します。
[構成] をクリックして、Web Adaptor に設定を適用します。

※バージョン 11.5 では、「Web Adaptor を介したサイトへの管理アクセスを有効にする」のチェックはありません。（バージョン 11.5 から、Web Adaptor 経由での ArcGIS Server サイトへの管理アクセスがデフォルトで有効になっており、無効化することはできません。インターネットに公開するサイトの場合は、WAF（Web Application Firewall）を備えたロードバランサーを導入して管理アクセスを制限することを推奨します。詳しくは「[1.1 本ガイドについて](#)」をご参照ください。）

[ヘルプ](#) | [ArcGIS Web Adaptor について](#)

ArcGIS Web Adaptor

ArcGIS Web Adaptor を構成するには、GIS サーバー、Image Server、または GeoAnalytics Server の完全修飾ドメイン名および管理者アカウントを指定します。

GIS, Image, Workflow Manager, GeoAnalytics or Knowledge Server: 1

例: server.domain.com

管理者のユーザー名: 2

管理者パスワード: 3

Web Adaptor を介したサイトへの管理アクセスを有効にする 4

サーバーが ArcGIS Web Adaptor を使用して構成されていません。

< 戻る
構成 5

6. 構成が完了すると、Web Adaptor で認識されている GIS サーバーのリストが表示されます。
以上で Web Adaptor の構成は完了です。

[ヘルプ](#) | [ArcGIS Web Adaptor について](#)

ArcGIS Web Adaptor

ArcGIS Web Adaptor を構成するには、GIS サーバー、Image Server、または GeoAnalytics Server の完全修飾ドメイン名および管理者アカウントを指定します。

GIS, Image, Workflow Manager,
GeoAnalytics or Knowledge Server: ?
例: server.domain.com

管理者のユーザー名: ?

管理者パスワード: ?

Web Adaptor を介したサイトへの管理アクセスを有効にする ?

次のサーバーが ArcGIS Web Adaptor を使用して構成されています:

- SERVER.DOMAIN.COM

i 最終更新日: 2020/02/25 13:41:39

次の URL を使用して Services Directory にアクセスします:

<https://server.domain.com/server/rest/services>

Portal for ArcGIS の場合と同様、組織内 DNS で Web サーバーに対して別の FQDN でアクセスする場合や、クラウド環境に ArcGIS Enterprise を構築する場合は、上記の手順に加えて、「[8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法](#)」に記載の手順を行う必要があります。これらのケースに該当する場合は、当該手順を行います。これらのケースに該当しない場合は以下の手順にお進みください。

4.4. ArcGIS Server REST ページの確認

ArcGIS Web Adaptor を介して、ArcGIS Server の REST エンドポイントが表示されることを確認します。

1. ArcGIS Web Adaptor の構成後に表示される URL を使用して、ブラウザでアクセスします。本ガイドでは、下記の URL になります。

<https://server.domain.com/server/rest/>

以下のページが表示されれば ArcGIS Server の REST エンドポイントは適切に表示されています。



以上で、ArcGIS Server の REST エンドポイントの確認は完了です。

4.5. 自己署名証明書の警告の非表示設定

IIS で使用しているサーバー証明書が自己署名証明書である場合、ArcGIS Web Adaptor の構成ページにアクセスする際、Web サイトのセキュリティ証明書に問題があることを示す警告が表示されます。また、ArcGIS Server に管理用ポートでアクセスする場合も、インストール時に自動的に作成された自己署名証明書が使用されるので、同様の警告が表示されます（他のコンポーネントも同様）。以下に、各ブラウザ別に、自己署名証明書の警告を非表示にする方法について説明します。

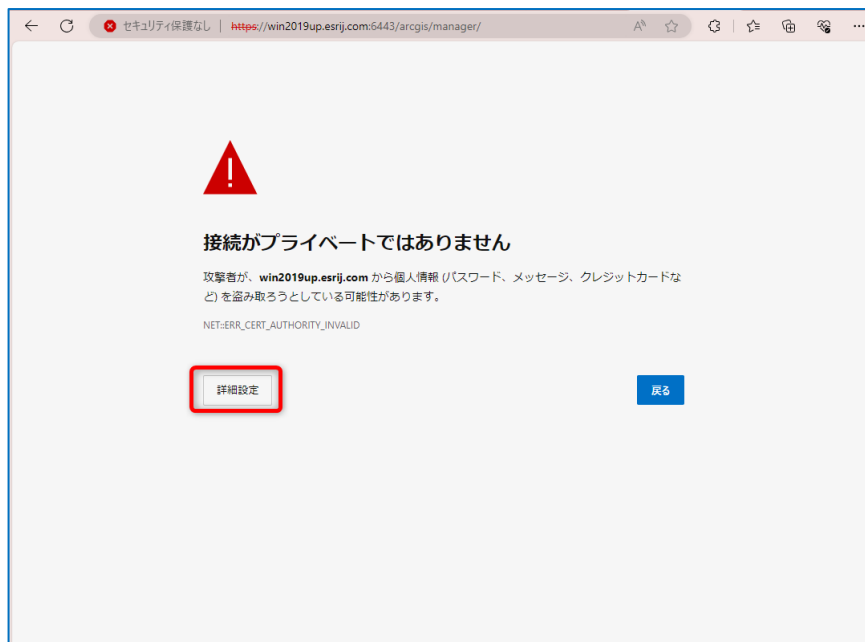
- 管理用ポートを使用して Portal for ArcGIS および ArcGIS Server にアクセスする際に使用する証明書をドメイン証明書に変更する方法は以下のリンクをご参照ください。

「ドメイン証明書の作成」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/administer/windows/create-a-domain-certificate.htm>

4.5.1. Microsoft Edge

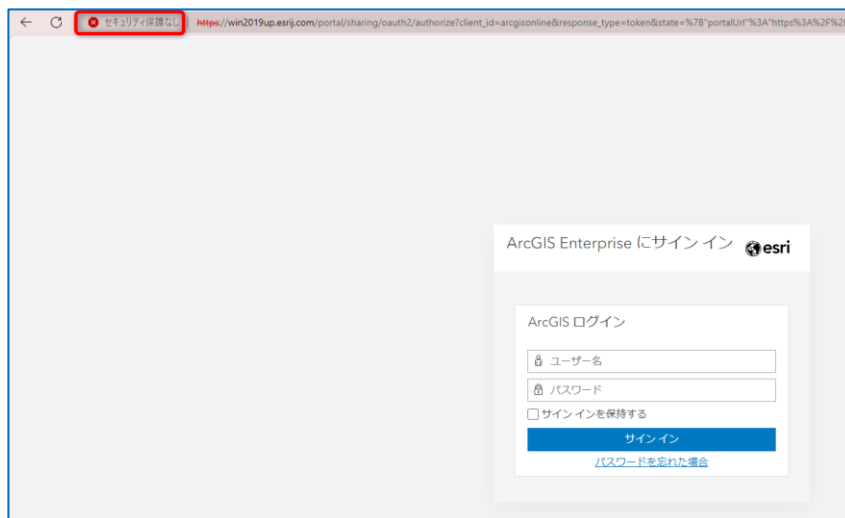
2. ブラウザー上で URL (<https://<ホスト名>:6443/arcgis/manager/>) にアクセスし ArcGIS Server Manager を開きます。警告メッセージの下にある [詳細設定] をクリックします。



1. 「<ホスト名> に進む(安全ではありません)」と記載されたリンクが表示されるので、このリンクをクリックします。



- これらの手順をすべて実行すると、警告ページがサーバー サイトに表示されなくなりますが、赤色のテキストと [安全ではありません] メッセージは URL バーに表示されたままになります。



4.5.2. Google Chrome

2. ブラウザー上で URL (*https://<ホスト名>:6443/arcgis/manager/*) にアクセスし、ArcGIS Server Manager を開きます。
1. 警告メッセージの下にある [詳細設定] をクリックします。

- 「<ホスト名>にアクセスする (安全ではありません)」と記載されたリンクが表示されるので、このリンクをクリックします。



- これらの手順をすべて実行すると、警告ページがサーバー サイトに表示されなくなりますが、赤色の [保護されていない通信] メッセージは アドレス バーに表示されたままになります。



4.5.3. Firefox

- ブラウザー上で URL (https://<ホスト名>:6443/arcgis/manager/) にアクセスし ArcGIS Server Manager を開きます。ここで [このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)] をクリックします。

1. 警告メッセージの下にある [詳細設定] をクリックします。
2. [危険性を承知で続行] をクリックします。



- これらの手順をすべて実行すると、警告ページがサーバー サイトに表示されなくなり、ArcGIS Server サイトがセキュリティ設定の例外サイトに追加されますが、Google Chrome の場合と同様、Firefox においてもアドレス バーの警告は表示されたままになります。



5. ArcGIS Data Store のインストールと初期設定

本章では、サーバー 3 に ArcGIS Data Store 11.5 をインストールし、構成するまでの手順を説明します。手順は以下になります。

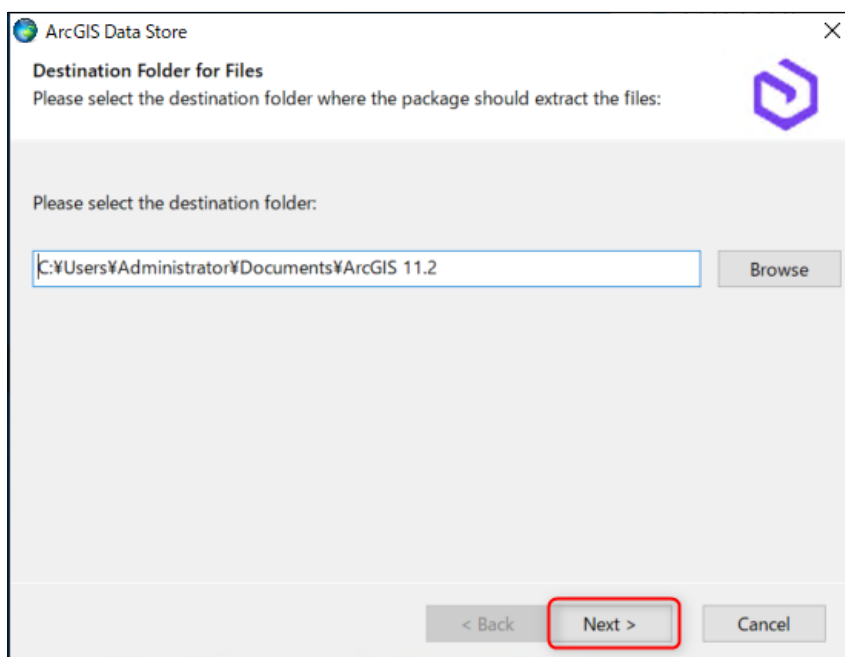
- ・ [5.1. ArcGIS Data Store のインストール](#)
- ・ [5.2. 新規 ArcGIS Data Store の構成](#)

5.1. ArcGIS Data Store のインストール

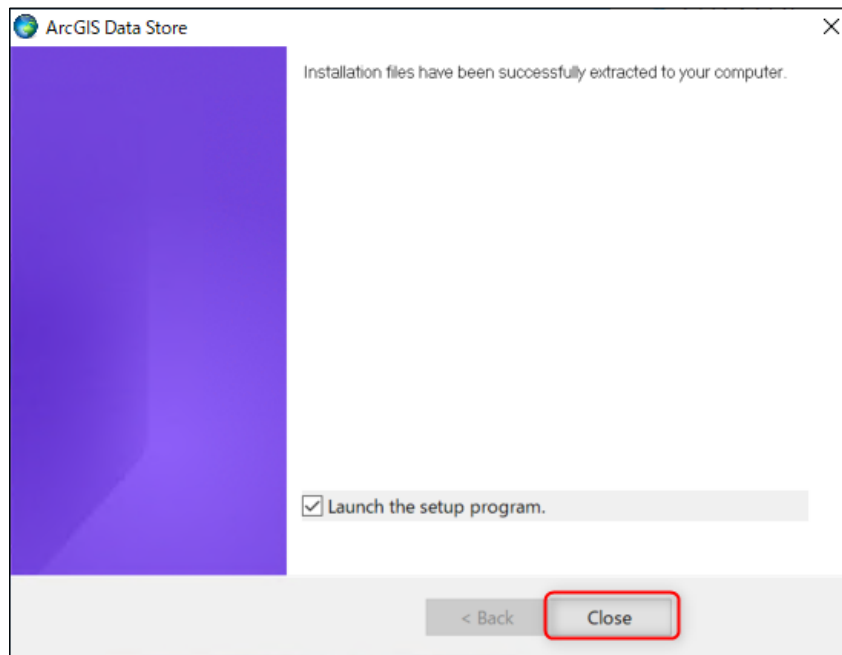
1. My Esri からダウンロードした ArcGIS Data Store のインストーラーをダブル クリックし、インストーラーを展開します。

ArcGIS_DataStore_Windows_<バージョン>_<number>.exe

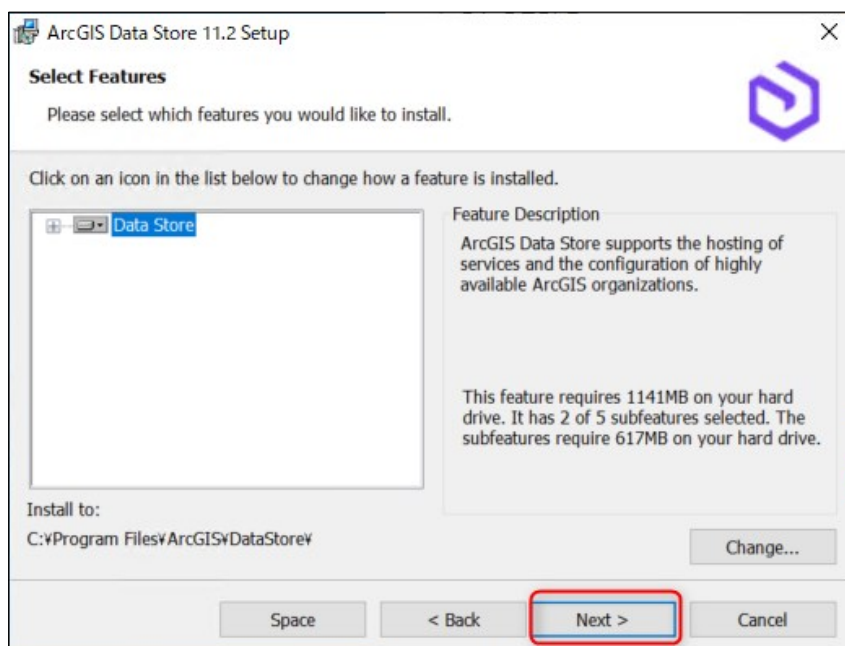
2. 下図が表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し [Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。



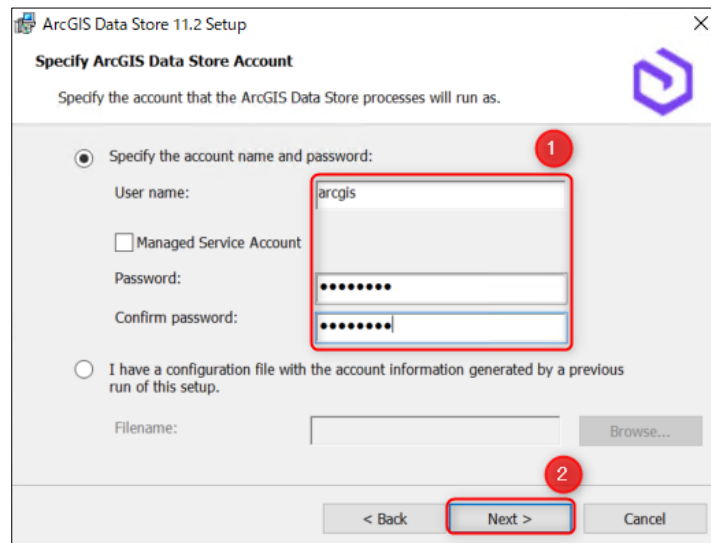
3. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。



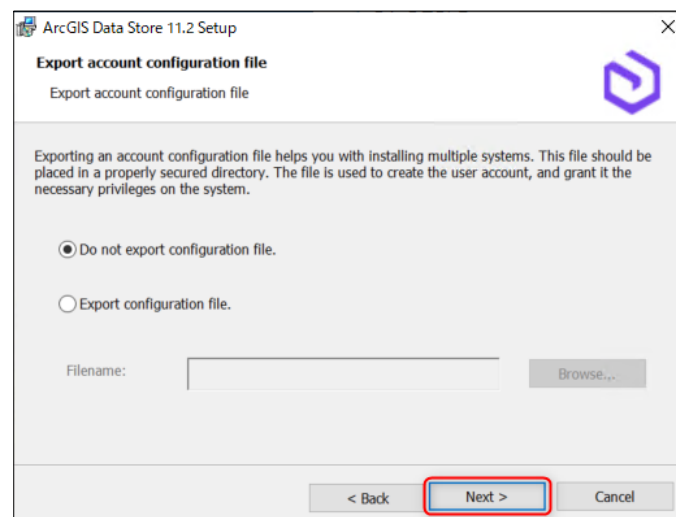
4. [Next] をクリックします。
5. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [I accept the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。
6. インストール先を指定し、[Next] をクリックします。



7. ArcGIS Data Store のプロセスを実行するサービス アカウントを指定します。アカウント名とパスワードを入力したら、[Next] をクリックします。



8. サーバー構成ファイルを出力するかを指定します。本ガイドではデフォルトの [Do not export configuration file.] を選択しますが、必要に応じて設定を変更してください。設定後、[Next] をクリックします。



9. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

10. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。

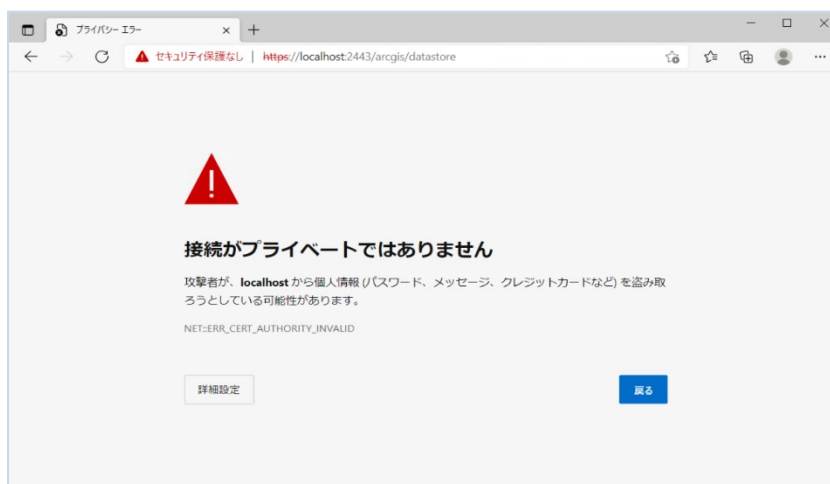
ArcGIS Data Store のインストールは以上で終了です。

5.2. ArcGIS Data Store の構成

ArcGIS Data Store をインストール後、ArcGIS Server サイトと連携するように設定します。

1. インストール完了後、自動的に下図のような Web ページが開きます。Data Store のデフォルトのセキュリティ証明書を使用しているため、[接続がプライベートではありません] と警告が表示されますが、Data Store の動作には問題ありません※。ここでは、[詳細設定] を表示して [localhost に進む (安全ではありません)] をクリックし、[データ ストア構成ウィザード] に進みます。

- Data Store の通常の運用として、ユーザーが直接 Data Store にアクセスすることは想定されておりません。ArcGIS Server との通信のみが発生します。



2. [データ ストア構成ウィザード] で、Data Store が連携する ArcGIS Server サイトの管理用接続情報としてマシン名を入力します。

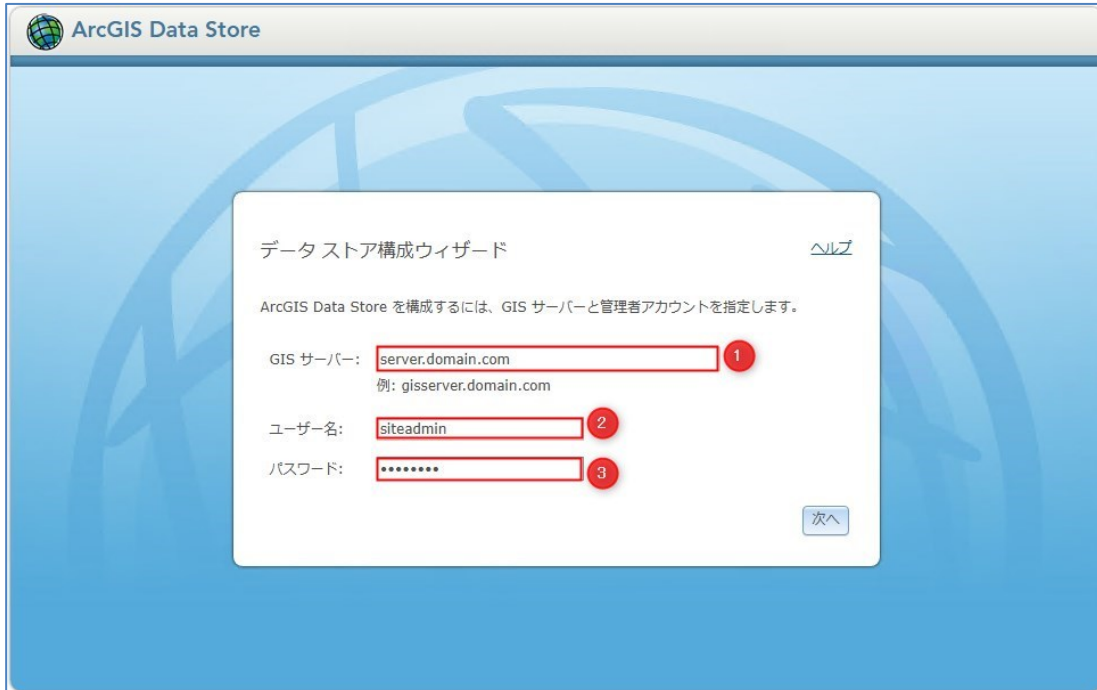
本ガイドでは、サーバー 2 (server.domain.com) に ArcGIS Server をインストールしたので、管理用接続情報は以下になります。

server.domain.com

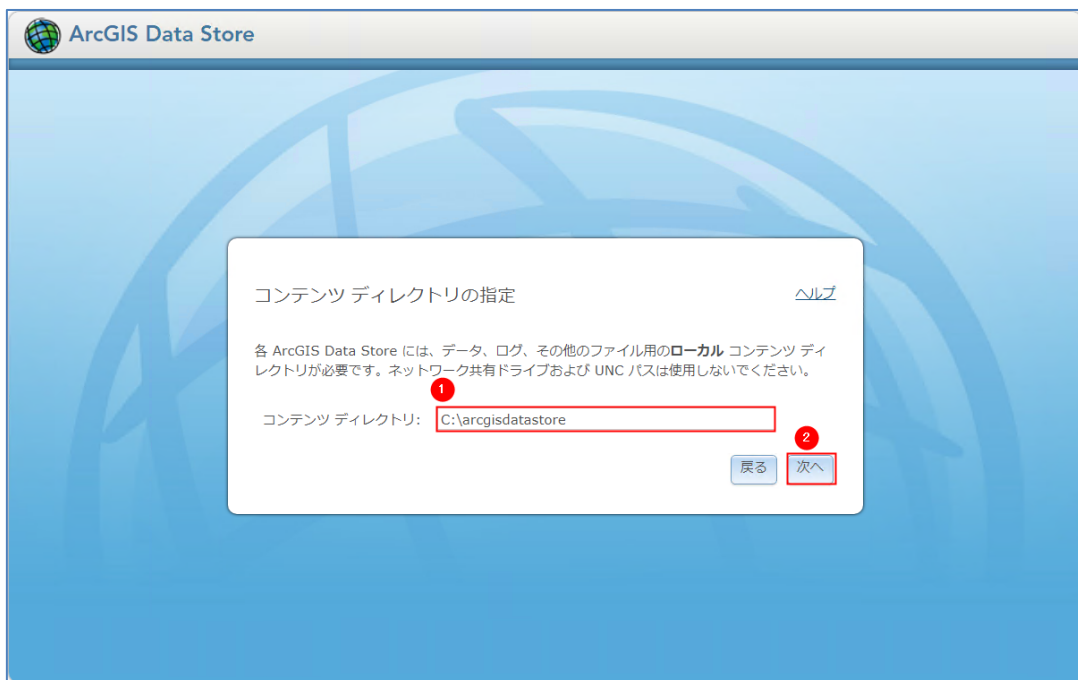
ユーザー名とパスワードは、ArcGIS Server プライマリ管理者のアカウントを入力します。

入力後、[次へ] をクリックします。

- ArcGIS Data Store をホストしているサーバー上で上記の ArcGIS Server の管理用 URL にアクセスできるか、ご確認ください。



3. コンテンツ ディレクトリを作成するディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。



4. Data Store のタイプを選択します。

ArcGIS Data Store は下記のタイプを選択することができます。

1. リレーショナル
2. タイル キャッシュ
3. 時空間 (Spatiotemporal)
4. グラフ
5. オブジェクト (単一コンピューターのデプロイメント)

本構成では、1 の [リレーショナル] と 2 の [タイル キャッシュ] を選択します。

その他のタイプについては下記をご参照ください。

<https://enterprise.arcgis.com/ja/data-store/latest/install/windows/what-is-arcgis-data-store.htm>

※ArcGIS Data Store 11.4 からタイル キャッシュ データストアはオブジェクト データストアに統合されました。詳細は下記をご参照ください。

https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/arcgis-data-store-terms.htm#ESRI_SECTION1_1713F0F54A31486CB5092F0C9D6703AE



5. 構成サマリーを確認し、[完了] をクリックします。

6. Data Store と ArcGIS Server の連携が完了しました。

ArcGIS Data Store を構成する作業は以上で終了です。次章「[6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定](#)」にお進みください。

6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定

本章では、Portal for ArcGIS と ArcGIS Server を連携させるための設定の手順について説明します。
手順は以下になります。

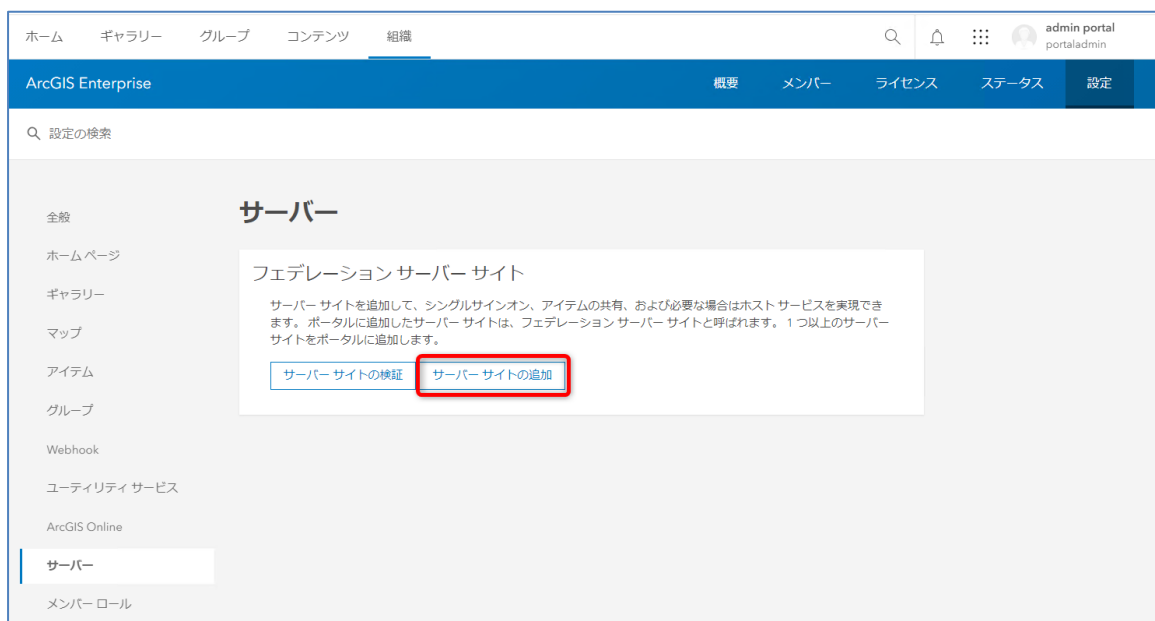
- ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして Portal for ArcGIS に登録
- フェデレーション サーバーとして登録した ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録

6.1. ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録

まず、ArcGIS Server をポータル上のフェデレーション サーバーとして登録します。

- ArcGIS Server や Portal for ArcGIS のサービス URL をリバース プロキシ サーバーの URL に設定する場合は、Portal for ArcGIS に ArcGIS Server をフェデレートする前に、サービス URL をリバース プロキシ サーバーの URL に変更する設定を行ってください。各サービス URL をリバース プロキシ サーバーの URL に変更する手順については、本ガイドの「ArcGIS Server の設定手順」、「Portal for ArcGIS の設定手順」をご参照ください。

1. 管理者 (ポータル インストール時に作成した初期管理者アカウントなどを使用) として、ポータル サイトにサイン インし、[組織] → [設定] → [サーバー] → [サーバーの追加] の順に選択し、次の情報を入力します。



- [サービス URL] :

外部ユーザーが ArcGIS Server サイトにアクセスするときに使用する URL。

本ガイドでは、ArcGIS Server および ArcGIS Server 用 Web Adaptor (Web Adaptor 名 : server) はサーバー 2 (server.domain.com) にインストールされているので、URL は以下になります。事前準備の章で設定した環境情報に合わせて設定する URL を変更して下さい。

`https://server.domain.com/server`

ArcGIS Server で WebContextURL を設定している場合、サービス URL には、WebContextURL で設定している URL を入力します。

- [管理 URL] :

管理者操作を実行する ArcGIS Server サイトへのアクセスに使用する URL。

本ガイドでは、URL は管理用ポートを使用するので、以下になります。

`https://server.domain.com:6443/arcgis`

- サービス URL には、必ずサーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用します。また、すべての通信にHTTPS/SSLを使用している場合は、http の代わりに https を使用します。

- ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録する前に、Portal for ArcGIS をホストしているサーバー上で上記の ArcGIS Server の管理用 URL にアクセスできるかご確認ください。

- [ユーザー名] :

ArcGIS Server Manager にログインする際に使用する ArcGIS Server のプライマリ サイト管理者名。

- [パスワード] :

ArcGIS Server のプライマリ サイト管理者アカウントのパスワード。

サーバー サイトの追加
×

サーバー サイトのフェデレート
サーバー ロールの構成

サービス URL
サーバー サイトにアクセスするときに外部ユーザーが使用する URL です。

例: https://webadaptorhost.domain.com/webadaptorname

管理 URL
内部ネットワークで管理操作を実行するときに、サーバー サイトにアクセスするために使用する URL です。

例: https://gisserver.domain.com:6443/arcgis ⓘ

サーバーの資格情報
サーバー サイトへの初回サイン インと管理に使用したプライマリ サイト管理者アカウントとこれらの資格情報を一致させる必要があります。

ユーザー名

パスワード

2. [追加] をクリックします。フェデレーション サーバーに ArcGIS Server が追加されます

- ArcGIS Server の追加に関するエラーが表示される場合は、以下のヘルプをご参照ください。

「よくある質問と解決策」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/common-problems-and-solutions.htm>

以上で、ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録するための作業は完了です。手順「[6.2. ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録](#)」にお進みください。

6.2. ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録

続いて、フェデレーションサーバーとして登録した ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録します。

1. ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録した画面にて、サーバー ロールの構成を設定できます。



サーバー サイトの追加

サーバー サイトのフェデレート サーバー ロールの構成

必要に応じて、このサーバー サイトに次のサーバー ロールを構成して Enterprise ポータルに機能を追加します。サーバー ロールの詳細をご参照ください。

ホスティングサーバー ホスティングサーバーを構成して、メンバーが ArcGIS Enterprise ポータルでホストレイヤーの公開と解析の実行ができるようにします。	<input checked="" type="checkbox"/>
GeoAnalytics Server GeoAnalytics Server サイトを構成して、メンバーがフィーチャとテーブルデータで分散ビッグデータ解析を実行できるようにします。	要件が満たされていません
ラスター解析 ラスター解析サーバー サイトを構成して、メンバーが分散ラスター解析と画像処理を実行できるようにします。	要件が満たされていません
イメージホスティング イメージホスティングサーバー サイトを構成して、イメージレイヤーから作成され、ラスター解析サーバーによって生成されたイメージサービスをホストします。	要件が満たされていません
Notebook Server Notebook Server サイトを構成して、メンバーが Python Notebook の作成、実行、共有をできるようにします。	要件が満たされていません
Mission Server ミッションサーバー サイトを構成して、ミッションの管理と調整に使用する状況認識機能とコミュニケーション機能を有効にします。	要件が満たされていません
Workflow Manager Server Workflow Manager Server サイトを構成して、ワーク管理ツールと生産性ツールを有効にします。	要件が満たされていません

サーバー ロールの保存 完了

2. [ホスティング サーバー] にチェックを入れて [サーバー ロールの保存] をクリックし、終了します。

以上で、ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録するための作業は完了です。

ArcGIS Enterprise の基本構成をセットアップする作業は以上です。次の章では、ポータル サイトの管理設定について説明いたします。

- 設定の詳細については以下のヘルプをご参照ください。

「ArcGIS Server サイトをポータルとフェデレート」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/federate-an-arcgis-server-site-with-your-portal.htm>

「ホスティング サーバーの構成」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/windows/configure-hosting-server-for-portal.htm>

7. 追加の管理設定

7.1. ユーザーの追加と管理

本節では、ポータル サイトのユーザーやコンテンツの管理の方法について説明します。

7.1.1. ユーザーおよびコンテンツの管理

Portal for ArcGIS では、以下の 3 つの要素によりポータル サイトのユーザー権限やコンテンツの共有方法を管理することができます。

- ユーザー タイプ
- ロール
- グループ

- 詳細については、以下のヘルプの各項目をご参照ください。

「ユーザー タイプ、ロール、権限」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/roles.htm>

■ ユーザー タイプ

Portal for ArcGIS のユーザーの種類には、主に以下のような汎用ユーザー タイプがあります。

- ・ Viewer
- ・ Contributor
- ・ Mobile Worker
- ・ Creator
- ・ Professional
- ・ Professional Plus

詳細は下記をご参照ください。

<https://www.esri.com/products/user-types/>

	Viewer	Contributor	Mobile Worker	Creator	Professional	Professional Plus
機能						
組織内に共有されたマップやアプリの参照	○	○	○	○	○	○
データ編集		○	○	○	○	○
フィールド アプリを使用したデータ収集や編集			○	○	○	○
マップやアプリの作成				○	○	○
フィーチャ解析の実行				○	○	○
ラスター解析の実行					○	○
組織サイトの管理				○	○	○
ArcGIS Pro の使用				○ (Basic)	○ (Standard)	○ (Advanced + エクステンション)

また、バージョン 11.3 以前の Portal for ArcGIS のユーザー タイプは以下の通りです。

- ・ Viewer
- ・ Editor
- ・ Mobile Worker
- ・ Creator
- ・ GIS Professional

詳細は下記をご参照ください。

<https://www.esri.com/products/user-types-enterprise/>

■ ロール

指定ユーザーには、それぞれ異なるユーザー権限を持つ、以下のようなロールのうちのいずれかを割り当てることができます。

- ・ 管理者
- ・ 公開者
- ・ ユーザー
- ・ データ編集者
- ・ 閲覧者

また、付与する権限を独自に組み合わせたカスタム ロールを作成することもできます。

■ グループ

ポータル サイトにおける各アイテムの公開 (共有) 範囲は、以下の 3 種類です。

- ・ 一般公開
- ・ 組織内での公開 (組織の全指定ユーザーに公開)
- ・ 1 つまたは複数のグループへの公開

グループを作成し特定のユーザーをグループに追加することで、アイテムを組織内の特定の部署に所属するユーザー間でのみ共有することができます。グループには、ユーザーの他にアイテムを登録することができます。特定のプロジェクトに関連するマップやアプリケーションなどのアイテムをグループに登録することで、コンテンツを分野および対象地域別に整理することができます。

7.1.2. ユーザーの追加

Portal for ArcGIS 組み込みのアイデンティティ ストアにユーザー アカウントを作成するか、既存のエンタープライズ アカウントを登録することでユーザーを追加することができます。以下、各ユーザーの管理について説明します。

- ポータルへのアクセスの管理についての詳細は、以下のヘルプをご参照ください。

「ポータルへのアクセスの管理」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/managing-access-to-your-portal.htm>

- 新規追加したユーザーにデフォルトで適用されるユーザー タイプとロールを設定することが出来ます。デフォルトで適用されるユーザー タイプとロールの設定方法については、以下のヘルプをご参照ください。

「新しいメンバーのデフォルトの構成」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/configure-new-member-defaults.htm>

◆ Portal for ArcGIS のユーザー アカウントを作成する場合

作成したユーザー情報やグループは、ポータルの組み込みアイデンティティ ストアで管理されます。

- ユーザー アカウントの各種作成方法については、以下のヘルプ ページの各セクション内にある「組み込みポータルアカウント」をご参照ください。

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/add-members-to-your-portal.htm>

◆ 組織固有のアカウントを登録する場合

ユーザー情報やグループは、既存の組織固有のアイデンティティストアで管理されます。

- エンタープライズ アカウントを登録する前に以下のヘルプを参照し、設定を行います。
「組織固有のログインの設定」
https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-configuring-portal-authentication.htm#ESRI_SECTION1_66C3475137F544719F1CA3129B62D939
- エンタープライズ アカウントの各種登録方法については、以下のヘルプ ページの各セクション内にある「組織固有のアカウント」の箇所をご参照ください。
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/add-members-to-your-portal.htm>

7.1.3. Portal for ArcGIS の使用状況の管理

ポータル サイトには、アイテム、ユーザー、グループ別の使用状況に関する統計情報をレポートする Activity Dashboard が組み込みのアプリケーションとして含まれています。管理者はこの情報を使用して、ポータル サイトの使用状況を監視することができます。

- [Activity Dashboard] についての詳細は、以下のヘルプをご参照ください。
「使用量レポート」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-usage-reports.htm>

7.2. ポータル Web サイトのカスタマイズ

組織でのポータル サイトの利用環境などに合わせ、ポータル サイトをカスタマイズすることができます。カスタマイズを行う場合は、ポータル サイトに管理者としてサイン インし、[組織] → [設定] ページに移動します。

本節では、[設定] ページで設定可能な項目の概要について説明します。

- 各項目の詳細や設定方法については、以下のヘルプの該当項目をご参照ください。
「組織サイトの構成の基本」
<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-configuring-the-portal-website.htm>

■ [全般]

ポータル サイトでの使用言語やトップページに表示するロゴ、説明文、リンク先などを設定することが

できます。

■ [ホーム ページ]

トップ ページの外観や表示するコンテンツの一覧についての設定を行うことができます。

■ [ギャラリー]

[ギャラリー] ページに表示するコンテンツをグループ単位で選択することができます。

■ [マップ]

マップ ビューアーで使用するデフォルトのベースマップ、表示範囲、単位などについて設定することができます。デフォルトでは、「ベースマップ ギャラリー」および「デフォルト ベースマップ」に Esri が提供する ArcGIS Online のベースマップおよびベースマップ ギャラリーを使用するように設定されています (インターネットに接続できない場合は、ArcGIS Server のサービスを設定してください)。

■ [アイテム]

[アイテム詳細] ページでコメント追加機能を有効または無効にすることができます。

■ [グループ]

ユーザーに特に見たいコンテンツを含むグループを「注目のグループ」として設定したり、テンプレートを含むグループをテンプレート ギャラリーで使用するように設定したりすることができます。

■ [Webhook]

Webhook を構成することで、特定のイベントが発生した際に通知を受けることができます。

■ [ユーティリティ サービス]

マップ上で使用する各種サービス (印刷、ジオコーディング、ジオメトリ演算、ルート検索) を設定することができます。デフォルトでは、Esri が提供する ArcGIS Online の各種サービスを使用するように設定されています (インターネットに接続できない場合は、ArcGIS Server のサービスを設定してください)。

■ [ArcGIS Online]

ArcGIS Online アカウントを所有している場合は、ポータル サイトで ArcGIS Online のユーティリティ サービスを使用するようにポータルを構成することができます。ArcGIS Online ユーティリティ サービスに対応するアイテムが [マイ コンテンツ] ページに作成され、組織内のすべてのユーザーに共有されます。ポータルでこれらのサービスを使用すると、指定した ArcGIS Online アカウントからクレジットが消

費されますのでご注意ください。

■ 【サーバー】

Portal for ArcGIS と ArcGIS Server を連携するための設定を行うことができます。詳細は、本ガイドの「[6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定](#)」をご参照ください。

■ 【メンバー ロール】

ユーザーに付与するロール (デフォルトでは「データ編集者」、「ユーザー」、「公開者」、「管理者」、「閲覧者」の 5 種類) をカスタマイズして独自のロールを作成することができます。ロールについては、本ガイドの「[7.1. ユーザーの追加と管理](#)」をご参照ください。

■ 【新しいメンバーのデフォルト設定】

組織の設定で新しいメンバーを追加する際、デフォルトで設定されるユーザー タイプ、メンバー ロール、アドオン ライセンス、およびグループ メンバーシップなどを指定することができます。

■ 【コラボレーション】

ArcGIS Enterprise または ArcGIS Online の組織間で、GIS コンテンツを共有することができます。

■ 【セキュリティ】

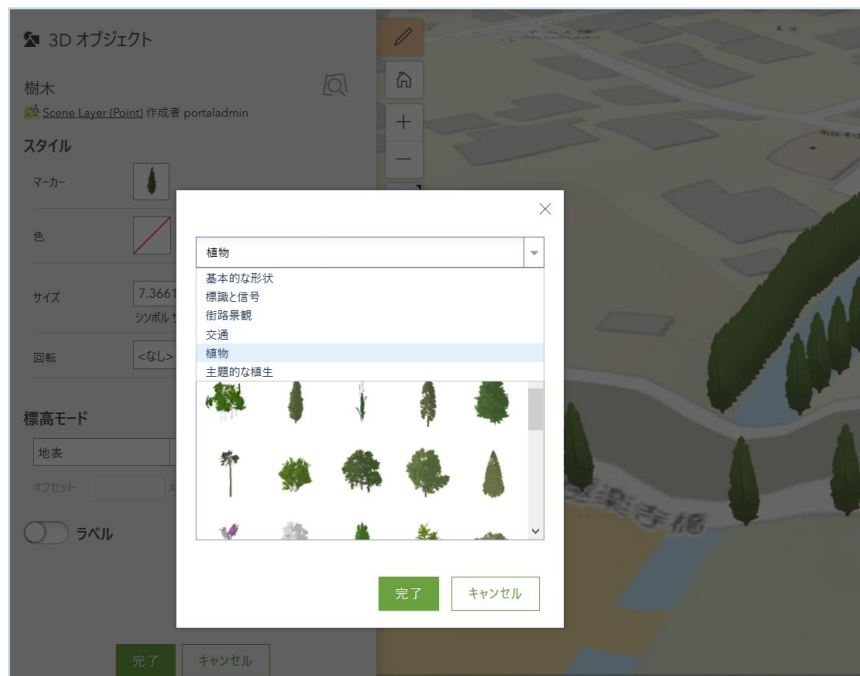
ポータル サイトへのアクセスなどに関するセキュリティを高めるための設定をすることができます。

7.3. 3D シンボルのインストール

3D のシンボル ギャラリーに植生などの追加の 3D シンボル セット (Web スタイル) を利用できるよ
うにするインストーラーを提供しています。

1. My Esri からダウンロードした Web スタイルのインストーラーを実行し、起動したセットア
ップ ウィザードに従ってインストールを実行すると追加されます。
2. Portal_for_ArcGIS_Web_Styles_Windows_<バージョン>_<number>.exe

インストールが完了すると、Scene Viewer で利用できるようになります。



本ガイドでは、ArcGIS Enterprise の基本構成のセットアップ方法やポータル サイトの管理設定について
説明しましたが、本ガイド外の詳細な設定方法や使用方法については Web ヘルプをご参照ください。

7.4. ヘルプの日本語化

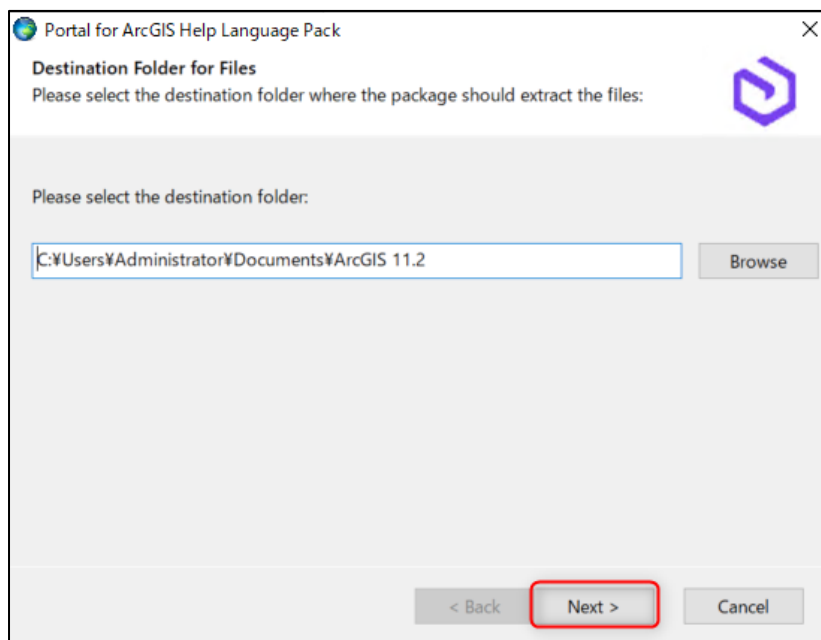
Portal for ArcGIS、ArcGIS Data Store をインストールすると、英語のヘルプが同時にインストールされま
す。Portal for ArcGIS および ArcGIS Data Store のヘルプを日本語化する場合は、以下の作業を行って
ください。

- 本ガイドは、 Portal for ArcGIS のヘルプの言語パックのインストーラーをダウンロードしてインストールする場合を想定
しております。ISO ファイルをダウンロードしてインストールする場合は、ArcGIS Enterprise の ISO ファイルに含まれ
ているインストーラーを使用してください。製品メディアからインストールする場合は、製品メディアに含まれている
インストーラーを使用してください。

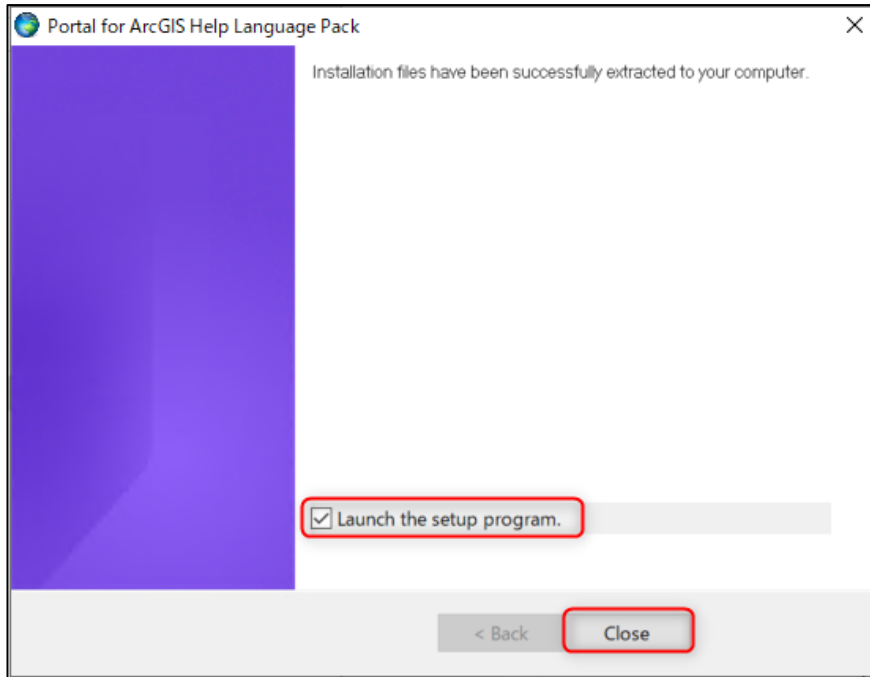
1. My Esri からダウンロードした Portal for ArcGIS ヘルプの言語パックのインストーラーをダブル
クリックし、インストーラーを展開します。展開先のフォルダーを指定して、[Next] をクリ
ックします。

Portal for ArcGIS の場合：Portal_for_ArcGIS_Help_LP_<バージョン>_<number>.exe

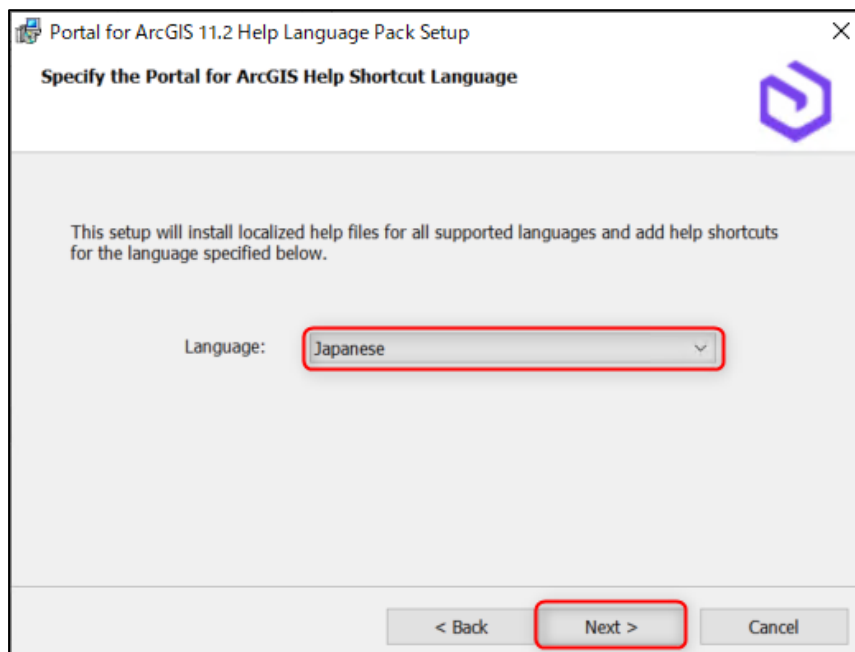
ArcGIS Data Store の場合：ArcGIS_DataStore_Help_LP_<バージョン>_<number>.exe



2. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状
態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。



3. [Next] をクリックします。
4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は、[I accept the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。
5. [Language] の横のドロップダウン リストからインストールする言語を選択します。ここでは日本語のヘルプをインストールするため [Japanese] を選択し、[Next] をクリックします。



6. [Install] をクリックしてインストールを開始します。
7. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。
8. インストール後、スタート メニュー内にある「Portal for ArcGIS ヘルプ」または「ArcGIS Data Store ヘルプ」または、以下の URL より日本語化されたヘルプにアクセスしてください。

Portal for ArcGIS の場合 : <https://<FQDN or マシン名>:7443/help/ja/portal>

ArcGIS Data Store の場合 : <https://<FQDN or マシン名>:2443/arcgis/help/ja/data-store>

8. 参考情報

8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法

ArcGIS Server および Portal for ArcGIS のサービス URL を、パブリック DNS やリバース プロキシ サーバーの URL など、別の URL に変更する手順について記載します。

8.1.1. ArcGIS Server の設定手順

注意：この設定は Portal for ArcGIS を ArcGIS Server サイトとフェデレートする前に行ってください。

1. Web ブラウザーから ArcGIS Server Administrator Directory にサイン インします。
https://<マシン名 or FQDN>:6443/arcgis/admin
2. [System] → [Properties] → [Update] とリンクをクリックします。
3. [Update Server Properties] の項目に JSON 情報を記述し、サービス URL を、設定したい URL に変更します。

"WebContextURL": "https://<サービス URL>"

[WebContextURL] は、ユーザーがアクセスするサービスのエンド ポイントを定義するパラメータになります。以下では、ケース別に WebContextURL の設定方法を記載します。

- Web サーバーのパブリック DNS で ArcGIS Server へアクセスする場合

Azure や AWS などのクラウド環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築し、Web サーバーのパブリック DNS を使用して ArcGIS Server へアクセスする場合は、以下のように設定します。

"WebContextURL": "https://<Web サーバーのパブリック DNS>/<Web Adaptor 名>"

- ロード バランサー (LB) やリバース プロキシを介して ArcGIS Server へアクセスする場合
LB やリバース プロキシを介して ArcGIS Server へアクセスする場合は、以下のように設定します。

"WebContextURL": "https://<LB やリバース プロキシの FQDN>/<Web Adaptor 名>"

ArcGIS Server Administrator Directory

[Home](#) > [system](#) > [properties](#) > [update](#)

Update Server Properties

Server Properties

Properties (in JSON format):*

```
{  
  "WebContextURL": "http://reverseproxy.domain.com/mxgis"  
}
```

Format:

4. [Update] をクリックします。

8.1.2. Portal for ArcGIS の設定手順

注意：この設定は Portal for ArcGIS を ArcGIS Server サイトとフェデレートする前に行ってください。

1. Web ブラウザーから Portal Administrator Directory にサイン インします。
https://<マシン名 or FQDN>:7443/arcgis/portaladmin
2. [System] → [Properties] → [Update Properties] とリンクをクリックします。
3. [Update Server Properties] の項目に JSON 情報を記述し、サービス URL を、設定したい URL に変更します。

“WebContextURL”:<https://<サービス URL>>”

ArcGIS Server と同様に、Portal for ArcGIS においても、ケース別に WebContextURL の設定方法を記載します。

・ Web サーバーのパブリック DNS で Portal for ArcGIS へアクセスする場合
Azure や AWS などのクラウド環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築し、Web サーバーのパブリック DNS を使用して Portal for ArcGIS へアクセスする場合は、以下のように設定します。

“WebContextURL”:<https://<Web サーバーのパブリック DNS>/<Web Adaptor 名>>”

・ ロード バランサー (LB) やリバース プロキシを介して Portal for ArcGIS へアクセスする場合

LB やリバース プロキシを介して Portal for ArcGIS へアクセスする場合は、以下のように設定します。

“WebContextURL”:<https://<LB やリバース プロキシの FQDN>/<Web Adaptor 名>>”

Portal Administrator Directory

[Home](#) > [System](#) > [Properties](#) > [Update](#)

Update System Properties

Warning

Executing this operation will automatically restart the portal.

This restart will take a couple minutes to complete and cause your portal resources to be temporarily unavailable.

To verify that the restart has completed, log in to the Portal Administrator Directory again before continuing.

Properties (in JSON format) *

```
{
  "WebContextURL":
  "http://reverseproxy.domain.com/
  mygis"
}
```

Format HTML ▾

4. [Update Properties] をクリックします。

- 設定の詳細については以下のヘルプをご参照ください。

「ArcGIS Server でのリバース プロキシ サーバーの構成」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/deploy/windows/using-a-reverse-proxy-server-with-arcgis-server.htm>

「ポータルと、リバース プロキシまたはロード バランサーの統合」

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/using-a-reverse-proxy-server-with-portal-for-arcgis.htm>

8.2. Portal for ArcGIS から ArcGIS Server をフェデレート解除する方法

今後、ArcGIS Server と Portal for ArcGIS を連携して利用する必要がなくなった場合、フェデレーションを解除することができます。以下では、Portal for ArcGIS から ArcGIS Server をフェデレート解除する手順について記載します。

注意：解除するとホスト サービスを引き続き利用することができなくなり、利用しているアプリケーションに影響が生じるため、通常の運用や一般的なトラブルシューティングで頻繁に解除を行うことは推奨されません。

1. 管理者権限を持つユーザーで、ArcGIS Portal Directory にログインします。
`https://<Portal for ArcGIS のマシン名 or FQDN>:7443/arcgis/portaladmin`
2. [Federation] → [Servers] に移動します。Portal for ArcGIS にフェデレートされている ArcGIS Server が表示されます。
3. フェデレート解除する ArcGIS Server をクリックします
4. [Unfederate] をクリックします。
5. [Unfederate Server] をクリックします。ArcGIS Server のフェデレート解除が実行されます。実行後、フェデレートされている ArcGIS Server の一覧ページが表示されます。このページ上で、フェデレート解除を実行した ArcGIS Server が一覧に存在しないことを確認します。
6. フェデレート解除された ArcGIS Server のセキュリティ構成を確認します。ArcGIS Server Administrator Directory に、ArcGIS Server のプライマリ サイト管理者アカウントとしてアクセスします。

`https://<ArcGIS Sewsawarver のマシン名 or FQDN>:6443/arcgis/admin`

7. [security] → [config] に移動します。
8. 構成内容を確認します。下図の赤枠のプロパティが以下の通りに設定されていることを確認します。

Authentication tier : GIS_SERVER+

Authentication mode : ARCGIS_TOKEN

Server role : STANDALONE_SERVER

ArcGIS Server Administrator Directory

[Home](#) > [security](#) > [config](#)

Security Configuration

Configuration Properties

Protocol:	HTTPS Only
SSL Protocols:	TLSv1.2
SSL Cipher Suites:	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA, TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256, TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA, TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256, TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256, TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
HTTP Strict Transport Security (HSTS) enabled	false
Security for virtual directories enabled:	false
Authentication tier:	GIS_SERVER+
Authentication mode:	ARCGIS_TOKEN
Server role:	STANDALONE_SERVER
Server function:	

- 上記のプロパティが、記載の通りの設定と異なる場合は設定を変更します。構成画面下の [update] をクリックします。
- [Authentication tier] で [GIS_SERVER] を選択し、[Update] をクリックします。

Security Configuration

Protocol: HTTPS Only

SSL Protocols: TLSv1.2,TLSv1.1,TLSv1

SSL Cipher Suites: TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA, TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256, TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA, TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256

HTTP Strict Transport Security (HSTS) enabled:

Virtual directories security enabled:

Authentication tier: GIS_SERVER

Allow direct administrator access: GIS_SERVER, WEB_ADAPTOR, ARCGIS_PORTAL

Portal properties:

Allowed Admin Access IP's :

- 構成画面が自動的に表示されます。次に、構成画面下の [changeServerRole] をクリックします。
- [Role] に [STANDALONE_SERVER] を選択し、[Change Server Role] をクリックします。ArcGIS Server のセキュリティ構成画面が表示され、3つのプロパティ（Authentication tier、Authentication mode、Server role）が手順 8 で記載した通りの設定になっていることを確認します。

ArcGIS Server Administrator Directory

[Home](#) > [security](#) > [config](#) > [changeServerRole](#)

Change Server Role

Role Properties

Role:* STANDALONE_SERVER

Function: STANDALONE_SERVER, FEDERATED_SERVER, FEDERATED_SERVER_WITH_RESTRICTED_PUBLISHING, HOSTING_SERVER

Format: HTML

Change Server Role

8.3. ヘルプに関する情報

ArcGIS.com には、各コンポーネントの管理操作に関するヘルプが用意されています。こちらも併せてご参照ください。ヘルプ ページを参照される際は、ご使用のバージョンに合わせてページを切り替えてください。

■ Portal for ArcGIS に関する情報

- ・ Portal for ArcGIS のインストール、管理およびセキュリティ保護

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/what-is-portal-for-arcgis-.htm>

- ・ ポータル サイトにおけるトラブル シューティング

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/use/troubleshoot.htm>

- ・ Portal for ArcGIS 管理操作用 REST API

Portal for ArcGIS の管理操作で使用する REST API の使用方法を記載したページです。Portal for ArcGIS の管理操作は、管理用アプリケーションである Portal Administrator Directory でさらに高度な設定（Portal for ArcGIS の読み取り専用モードへの変更など）を行うことができます。Portal Administrator Directory 上で管理操作を行う際は、下記の REST API のヘルプ ページをご参照ください。

- ・ REST API ページ

<https://developers.arcgis.com/rest/enterprise-administration/portal/overview-of-portal-administration-in-the-arcgis-rest-api.htm>

- ・ Portal Administrator Directory の URL

<https://<Portal for ArcGIS のマシン名 or FQDN>:7443/arcgis/portaladmin>

■ ArcGIS Server に関する情報

- ・ ArcGIS Server の管理

<https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/administer/windows/administer-arcgis-server.htm>

- ・ ArcGIS Enterprise に関するよくある質問

<https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/use/faq.htm>

- ・ ArcGIS Server 管理操作用 REST API

ArcGIS Server の管理操作で使用する REST API の使用方法を記載したページです。ArcGIS Server Manager では行えない管理操作（ArcGIS Web Adaptor の登録解除など）を行う際は、もう 1 つの管理用アプリケーションである ArcGIS Server Administrator Directory を使用します。ArcGIS Server Administrator Directory 上で管理操作を行う際は、下記の REST API のヘルプ ページをご参照ください。

- ・ REST API ページ

<https://developers.arcgis.com/rest/enterprise-administration/server/overview.htm>

- ・ ArcGIS Server Administrator Directory の URL

https://< ArcGIS Server のマシン名 or FQDN >:6443/arcgis/admin

ArcGIS Enterprise 基本構成 セットアップ ガイド

2026年6月17日 第6版

ESRI ジャパン株式会社

<https://www.esrij.com/>

Copyright(C) Esri Japan. 無断転載を禁ず

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。

